

## 「幼な子らを止めてはならない」

神戸中央教会 川原崎 晃



それを見てイエスは憤り、彼らに言われた、「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である」。

マルコ10・14

神の国に生きることが、全く恵みであり、賜物であって、私たち人間の無力や未熟さはその妨げにはなりません。マルコ10・13、16に登場する幼な子に見るように、主イエスは、ご自身のことを十分理解もできず、主のお役に立たないのではと思われる者たちを受け入れてくださるのです。

ですが、主の弟子たちの考えは違っていました。幼な子らを主イエスのもとに連れてきた人々を「たしなめた」とあります(13)。幼な子たちは主を理解できない、主の役に立たないと考えたのでしょうか。しかし、主イエスは、そのような弟子たちに「憤り」を覚えられて、幼

な子らを連れてくることを「止めてはならない」とたしなめられたのです。そして、「神の国はこのような者の国である」と言われて、次から次に、一人またひとりと祝福し続けられました(16)。

今日、子どもたちについて、教育のこと家庭のことについて様々な対策が検討されています。しかし聖書の見方で言えば、子どもたちを主イエスのところに連れてくることを妨げている障害こそが、本当は根本問題だと言わなければならないかもしれません。社会のこととはともかくとして、私たちは自分たちの教会のことを考えてみる必要があります。主イエスは子どもたちのために時間をとり、愛を傾けられました。主の教会は、そのように愛と労苦をもって導くことが必要です。そして、主イエスが一人ひとりを祝福されたように、主の教会は一人ひとりの子どもたちを大切に、祈り、主の祝福、主の救いにより、主によって成長していくことを願うのです。「何人集まっているか」ということが先行することなく、「誰が集い、誰が集っていないか」に思いを馳せることが大切です。

私たちは、幼な子伝道を通して、人間の無力さと、神の恵みの豊かさ、その恵みによって生かされる力強さを教えられます。

# 牧羊者

## 目次

巻頭言	1
目次	2
カリキュラム	3
教師養成講座「聖書の教える人格教育 第一回 聖書の教える教育とは？」	4
キリストの十字架への道	11
復活	23
牧羊ひろば（鹿児島めぐみ教会）	89
「牧羊者」のご購読・ご利用について	94
おわりに	94

### 〔凡例〕

1. 原語について：ギリシャ語は〔ギリ〕、ヘブル語は〔ヘ〕、アラム語は〔ア〕で表記しています。
2. 礼拝メッセージ例の最後の「さんび」の略記について  
こ：「こどもさんびか」、こ改：「こどもさんびか改訂版」（以上、日本キリスト教  
団出版局）、ホ：「教会学校・日曜学校 子どもさんびか」（日本ホーリネス教団出  
版局）、イン：「教会学校さんびか」（インマヌエル教会学校部）、ふ：「ふくいん子  
どもさんびか」、GS：「ふくいんこどもさんびか2 グローイング・ソング」（以  
上、日本児童福音伝道協会）、PW：「プレイズワールド」（リビングブレイズ）



● 年始

行事

テーマ

聖書

暗唱聖句

1月3日 新年礼拝 ニコデモ

ヨハネ 3:1～15

同 3 節

● キリストの十字架への道

行事

テーマ

聖書

暗唱聖句

1月10日

十字架を負って従う

ルカ 9:21～27

同 23 節

17日

変貌のキリスト

ルカ 9:28～36

同 35 節

24日

前進への決意

ルカ 9:51～62

同 62 節

31日

いやされた十人の病人

ルカ 17:11～19

同 15・16 節

● 復活・昇天

行事

テーマ

聖書

暗唱聖句

3月27日 イースター

よみがえられたキリスト

ルカ 24:1～12

同 5 節

2月7日

主がお入り用なのです

ルカ 19:28～40

同 34 節

14日

レバタ2枚をささげたやもめ

ルカ 21:1～4

同 3 節

21日

オリブ山での祈り

ルカ 22:39～46

同 42 節

28日

キリストのまなざし

ルカ 22:54, 61, 62, 63, 64

同 61 節

3月6日

身代わりの十字架

ルカ 23:13～25

同 5・21 節

13日

十字架での祈り

ルカ 23:32～38

同 34 節

20日 棕櫚の日

十字架による救い

ルカ 23:39～43

同 43 節

# 聖書の教える人格教育

## 第一回 聖書の教える教育とは？

徳島栄光教会 森沢尚生



### 一、一般的な教育の意味

まず、一般的に教育とは何だと考えられているでしょうか。教育の語源をラテン語、漢語、和語からとりあげてみましょう。ラテン語において教育とは、『エドカチオ』ですが、これは語幹『エドー』から動詞『エドコー』、そこから名詞『エドカチオ』が出ています。語幹『エドー』には『引っ張り出す』という意味と『出して与える』という両方の意味があり、産婆が引っ張り出すのもエドーなら、乳母が授乳するのもエドーなのです。英語のエデュケーションの基になった『エドカチオ』ですが、そ

の原意において、引っ張りだしてのばすという意味と注いで型にはめるという意味の両方を表しているのです。漢語における教育について述べると、教という字の偏の『孝』とは『年少者が年長者に学ぶ』という意味で、つくりの『父』は、『木の鞭を持つてたたかれながら、年長者に学ぶ』という意味です。ですから『教』の意味は、年長者から知識や技術を強制的に教えられるという意味です。育のほうは、カンムリの部分が、『子』という字がひっくり返っており、月の部分は肉月で、体を表しており、『もともと子供がもっているものを引っ張り出す』という意味をもっています。そこで、漢語による教育も、強制的に注入し型にはめることと、引っ張り出してのば

すことを両方意味していることがわかります。

では、大和言葉ではどうでしょう。教育の『教』を意味する『おしえる』という言葉は『おしう』からきています。『いとおしむ』とか『惜しむ』という意味で、もっている力を惜しみ、引き出してあげることを意味しています。

また教育の『育』を意味する『そだつ』は『巢立つ』『添え立つ』という言葉からきており、植物を真つすぐ上に育つように添え木をして矯正してやるという意味です。ここから教育は、大和言葉でも『もっている力を引き出してやる』ことと『正しい方向に矯正してやる』という両方の意味になります。

そこで、ラテン語でも漢語でも和語でも、教育というのは『注いで型にはめること』と『子供の持つっているものを引き出してのばしてやる』ということを両方意味していたことがわかります。語源的に『教育とは子供の能力を引き出すことで、つめこむことではない』といった主張は、教育学の世界の伝説で、もともと教育とは、引っぱり出してのばしたり、つめこんで型にはめたりしながら子供をよくすることを意味していたのです。

## 二、聖書の教える教育

一般的に教育の意味するところを見てまいりましたが、CS教師にとつて最も大切なのは、聖書が教育についてどう教えているかです。旧約聖書では、口語訳には『教育』という言葉は出てきません。新改訳に1個所出て参りますが、その程度では、旧約聖書の教える『教育』とは何かと論じるほど決定的ではありません。『ラマド』というヘブル語が、『教える』という意味で用いられますが、教える、訓練する、育てると、広く用いられていて、ここからも何らかの傾向をたどることはできません。

しかし新約聖書には、特別な『教育』が存在します。普通に『教える』というギリシャ語には、『ディダスコ』という動詞が用いられていますが、もう一つ特別に『パイデオ』という言葉が教育を意味する言葉として用いられているのです。これは、パイイスとアゴーがくつついた言葉で、パイイスは子供という名詞で、アゴーは導くという動詞です。『パイデオ』は、子供を導くという原意をもった教育なのです。聖書では、『ディダスコ』

が、一般の教育を表すのに用いられ、『バイデウオー』は、子供を導くという意味の教育に特別に用いられているのです。

## (1) 神の前に立つ所まで導く教育

では、子供をどこへ導くのでしょうか。ガラテヤ3・24を開いて下さい。ここに『律法は私たちをキリストへ導く養育係』と出てきます。この養育係と訳されているのが、『バイデウオー』の教育をする教師『パイダゴゴス』です。またⅡテモテ3・16では、『聖書は、…義に導くのに有益です』と教えていますが、義に導くと訳されているのが『バイデウオー』です。ここから、『バイデウオー』とは、善悪をわきまえさせて、神の前に立つ所まで導く教育だということがわかります。律法は、本来イエス・キリストの予表であり、律法を守ったら天国に行けるといえるものではありません。律法は、善悪をわきまえさせ、自分が罪人であることを自覚させ、罪の赦しを得るように神の前に立たせるものです。『バイデウオー』の教育は、律法や聖書を用いて、子供に罪を自覚させ、

罪の赦しを得るように神の御前に立たせ、イエス・キリストを信じる信仰による神の義に導く教育なのです。

## (2) 主の教育

エペソ6・4を開いて下さい。ここに子供を『主の教育と訓戒によつて育てなさい』(新改訳)と記されています。この教育も『バイデウオー』の名詞型『パイディア』です。聖書が『主の教育』で子供を育てなさいと教えているのですから、私たちは主の教育とは何かを調べ、学び、身に付け、実行に移さなければなりません。主の『パイディア』とはいったいどのようなものなのでしょう。

### ① 価値を発見させる

イエス様の教育の特徴は、例えば話と個人的解き明かしでした。イエス様は神の国の福音と自ら名付け、神の国の価値観と地上の価値観の違いを例えば話で示されました。また、理解できない弟子たちには、個人的に解き明かしをなさいました。知識や技術は繰り返し教え、繰り返し訓練すれば身に付けることができます。例えば聖書

を読ませ、説教を聞かせ、み言葉を暗唱させ、繰り返し聖書を教えれば、知識は身に付きます。しかし信仰とは、聖書知識や神を知る知識でしょうか？ 知識は必要ですが、聖書知識をもった未信者、不信者、背教者、異教徒という者は存在します。信仰は聖書知識だけではなく、価値観です。信仰は、神の国の価値を受け入れ、神様を受け入れ、神様と交わり、神様と一つとなる神との人格的交わりなのです。

子供は、価値というものを教えたからといって、そのことに価値を置くようになるとは限りません。価値とは、自分にとって価値があるか否かであり、他人の価値観を押しつけられても、そのことに価値を置くようにはならないのです。価値は、発見することによって身に付けるものなのです。イエス様は、人々に例え話を聞かせることによって、神の国の価値観と自分の価値観の違いにハッと気付かせ、神の国の価値観を発見させることによって信仰に導かれました。知識を教える教育だけでなく、価値を発見させる発見学習によって人を導くことが、主の教育（パイデウオー）なのです。

## ②知識でなく人格

エペソ6・4の初めに『父たる者よ。子供をおこらせないで』と書かれています。この『おこる』と言う言葉は、神の怒りなどに用いるうつろわない義憤を表わす言葉ではなく、急に怒りだす変わりやすい怒りを表しています。現代語に訳せば、ムカツクやキレルでしょう。そこで、このみ言葉は、お父さんは子供を、すぐムカツク、すぐキレルような人格に育ててはならないという意味だということが判ります。イエス様の時代にも、すぐにムカツク、キレル子供たちがいたのです。古代の終わりには非常に現代と似ていて、子供の人格が育ちにくかったのです。現代は化石燃料と機械の労働で繁栄していますが、古代は森林資源と奴隷の労働で繁栄し、そして森林資源の枯渇と奴隷制の崩壊で終焉を迎えます。古代社会は、人を奴隷として扱い、子供たちが労働を嫌い、子供の人格が育たなくなっていました。しかし現代も、合理的であることや快適であることが優先され、子供の人格を育てることが手間のかかるめんどうなこととされ、子供の人格が育たなくなってきたのです（現代に子供の人格が育ちにくい理由は後述）。聖書の教えるパイデ



ウオーの教育は、子供たちをすぐにムカツク・キレル者にならないよう、その人格（魂、霊）を育てることを意味しているのです。

### ③ 主の訓戒は互いに愛し合うこと

エペソ 6・4の後半には、主の『訓戒』で子供を育てるべきことが書かれています。旧約聖書における主の訓戒とは、十戒に代表される律法のことです。律法は、神の目で見えた善悪を教え、罪を認めさせ、子供を悔い改めに導きます。神様は、律法を鴨居に記し、額に記し、手に記して、日常生活のなかで身に付けさせなさいと勧めています。

新約聖書における主の訓戒とは、イエス様の唯一の戒めである『互いに愛し合いなさい』です。人は、狼に育てられると人に成れず、人は人と交わらないと人に成らないのです。そして、人は神という人格と交わらないと、神のようになりません。子供の人格の成長には、互いに愛し合うという人格的交わりが不可欠なのです。主の訓戒によって子供を育てるということは、律法によって罪の自覚を持たせることと、互いに愛し合うことに

よって人格的交わりを持たせることを意味していることが解ります。

### ④ 顔と顔を合わせて一対一の交わり

聖書では、デイダスコアの教師をデイダスカロス、パイデウオーの教師をパイダゴーゴスと呼んでいます。デイダスカロスの日本語訳は教師で、パイダゴーゴスの訳は、個人教授や養育係です。このことから、パイデウオーの教育は個人教授であり、一対一でなされるものであることがわかります。

それは、養育係と訳すよりも守役と訳した方が、日本語としては適当ではないかと思えます。かつて日本では、若殿には守役がつけました。守役は軽い役職ではありません。殿様が最も信頼する人物で、有能で、将来若殿が殿様になったときには家老につくような人物が、守役にあたりました。守役とは、父親代わりに若殿の人格の成長に気を配る役目だったのです。その国や家の将来は、若殿の人格にかかっていました。若殿は、武道や読み書きそろばんに秀でていなくても、家来にそれに優れた者がおればよいのです。しかし若殿の人格に破綻をき



たしていた場合、何人の家来が切腹し、どれだけ民百姓が苦しむか、ひよっとしたら家も断絶しなければならないかも知れません。ですからこそ、守役による一対一の人格教育が重要だったのです。

そして、聖書が教えるパイデウオーは、教師が父親代わりの守役として、子供と一対一になって、子供の人格の成長に責任を負い、主の前に立つところまで導くことなのです。

## (3) 価値を発見する人格教育の内容

### ① 神の目で見た善悪を教える

申命記11・18、21、12・28を開いて下さい。律法主義に陥るから律法を教えないというのは、聖書的ではありません。律法を守って天国に行けるという誤解を与えないように十分注意しながら、律法によって神の目から見た善悪というものを教え、何が罪かを理解させ、罪の自覚を与えることが人格を目覚めさせるには有効です。

### ② 目に見えないものに目を置く

Ⅱコリント4・18を開いて下さい。目に見えるものは一時的であり、目に見えないものが永遠に続くのです。お金、財産、地位、名誉は大切であっても、天国に持つていくことはできません。反対に、愛は目に見えませんが確実に存在し、先ず父母の愛がなければ自分の存在さえありません。また、正義も目に見えませんが、確実に存在し、正義がなければ人間は人間に対して狼であり、たがいに喰い合う社会となり、子供は存在すら危ういのです。同じく神様も目には見えませんが、愛と正義と同様に永遠につづくのです。目に見えないものに目を置かせることによって、神の存在に気付かせることができます。ことを聖書は私たちに教えています。

### ③ 神の国の価値観を知る

使徒17・26、28を開いて下さい。価値観は、各国、各地域、各時代、各世代で異なります。神様がバベルの塔以後に言語を違え、国を違え、時代を違わせたのは、国や語族や時代による価値観の違いに気付き、自分の価値観はどのようなものか、他の人の価値観とどう異なるの

かに気付かせ、何が本当に価値あることなのか考えさせ、神を求めさせるためなのです。イエス様も、神の国の価値観と地上の価値観との差を際立たせ、本当に価値あるものに気付かせるように、例えば話を多用されました。本当に価値あるものは何かを発見させていくことによって、神を発見させるように導くことができると聖書は教えています。

このように聖書の教える人格教育とは、神の目で見たま善悪に出会わせ、目に見えないものに目を置おかせ、神の国の価値観に出会わせて、子供たちの魂を目覚めさせ、本当に価値あるものを発見し、ついに神様を発見するように導く発見学習なのです。

箇条書きでまとめてみますと、以下ようになります。

◇人格教育は、子供を神の前に立つところまで導くことである。

◇人格教育は、子供をすぐにムカツク、キレル者にしないで、人格を育てることである。

◇人格教育は、父と子の一对一の関係で、教師は父親代わりの守役になってなされる教育である。

◇人格教育は、互いに愛し合う人格的交わりによってなされる教育である。

◇人格教育は、子供を神の目で見たま善悪に出会わせ、目に見えないものに目を置かせ、神の国の価値観に出会わせて、人格を目覚めさせ、ついに神を発見させる教育である。

聖書教師やCS教師は、『ディダスカロス』の教師として、聖書を正しく教えることをしながら、さらに『パイダゴゴス』として、子供の人格を神の前に立つ所まで導く教師でもあるのです。ですから、『パイディア』の教育（人格教育）とは何か、その原理や方法、内容を聖書から学ばないといけません。するとそこには、教会にしかできない教育があり、子供たちの霊（＝魂＝人格）を育てることによって、救いに導くことができるようになるのです。

# 聖書 ヨハネ3・1～15 テーマ 新しく生まれる

## 序論

(福井文彦)

ニコデモは当時宗教的にも社会的にも知識と経験に富む、高い地位を得た、ユダヤ人を代表する人物であった。その彼がイエスを〈先生〉と呼び、教師として最高級の人物と尊敬していた。しかし、彼にはイエスが人を新生し、霊的命を与えるメシヤ(救い主)であるという認識に欠けていた。

## 一、ニコデモのイエス理解

ニコデモは〈パリサイ人〉であった。パリサイ派の人は、ユダヤ教の正統的な信仰を持ち、旧約聖書の権威を信じ、それを実践している立派な人というイメージがあった。また、彼は〈ユダヤ人の指導者〉、つまりユダヤ人議会の議員でもあった。ユダヤ人議會は、ユダヤ人の政治的議會であり、ユダヤ教の最高の議會でもある。だから、彼は人々から尊敬され、有力で有名な人物でもあった。

彼は自分の社会的立場、人々に対する面子、体裁を考

え、人目を避けて夜こっそりイエスのところに来たとと思われる。彼はイエスに会う必要、飢え、渇きを覚えて自らイエスを尋ねて来た。彼はイエスを〈先生〉と呼び、最大級の尊敬の念を込めて教師として認めている。そのお方から教えを得ようと求めて来たのである。

ニコデモはイエスを、〈神からこられた教師〉、〈神がご一緒で〉ある、だれ一人出来ない〈しるし〉(奇跡)を行うお方と理解していた。彼はイエスの奇跡を見たことによつてイエスを非常に高く評価していた。しかし、彼にはイエスがメシヤであるとの認識に欠けていた。

## 二、水と霊による新生

そこでイエスは答えて、〈よくよくあなたに言っておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない〉と言われた。このところで〈新しく〉と訳されているギリシア語はアノーセンで、「上からの、天からの」という意味でもある。これは神により新しく生まれる、霊的誕生を意味する。人が生まれながらに持っている肉体的命ではなく、神から与えられる霊的命のことである。

ところが、ニコデモにはイエスが「新しく生まれる」

と言われたことが皆目分<sup>かひもく</sup>からず、肉体的な誕生のことしか考えつかなかった。彼は、〈人は年をとってから生れることが、どうしてできますか。もう一度、母の胎にはいつて生れることができましようか〉と、的外れな答えをしている。

そこで、イエスはもう少し詳しく説明された。〈だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない〉。ここで、〈水〉とは、①悔い改めと信仰告白、②み言葉、③御霊を指すと解し、「水すなわち御霊」など考えられる。いずれにしても、水と御霊による心の刷新（根本的変化）とその結果による霊的真理への目覚め、つまり神が与える霊的命を得ることが新生である。

### 三、新生の説明

イエスはニコデモが聞いた内容に当惑し、不思議に思っている（7）ことに対して、〈風〉を例として用いられた。風は吹いていても、目で見えることはできない。そんな風でも音なら聞くことができるし、そよぐ木々を見れば今風が吹いているのだと分かる。そのように、御霊による新生も、人間の目で見えることはできない。しかし、御霊が新生させてくださると、その人の人生がすっかり

変わるので、だれの目にもよく分かるのである。

しかし、ニコデモはまだイエスの言っておられることが理解できなかった（9）。そこでイエスは、イスラエルの民が昔、経験した故事を引き合いに出された（民数記21・4～9）。食物と水の不足に対して民は指導者モーセに逆らった。そこで神は罰として、彼らに毒蛇<sup>どくへび</sup>を送り、それにかませられたので、つぶやいた多くの者が死んだ。民は自分たちの不従順の罪を悔い、モーセにとりなしの祈を乞うた。モーセが祈ると、神は、あの毒蛇と同じ形をした蛇を青銅で作り、それを旗ざおの上につけるように命じられた。そして、毒蛇にかまれ苦しんでいる人が、その青銅の蛇を仰ぎ見ると救われたのである。それと同じように、十字架に上げられたイエスを信じて、仰ぎ見る者はだれでも、救われ、永遠の命が与えられて、神の国に入ることができるのである。

### 結論

イエスは、だれでも、イエスに対する信仰によって新生し、罪とその結果の永遠の刑罰から自由にされ、永遠の命を与えられて神の国に入ることができることを教えられたのである。

## 研究資料

(井上義実)

ヨハネによる福音書は、共観福音書と呼ばれるマタイ、マルコ、ルカによる福音書と比べて独自な点が多い。本個所に登場するニコデモもヨハネのみが記している。

## テキスト

1 パリサイ人 パリサイの語源は分離された者たちという意味であるが、何から分離されていたかについては諸説がある。パリサイ人が律法を厳守し、律法にかなわない人々から分離されていたと考えられている。パリサイ人は成文律法だけではなく、口伝律法も同等に受け入れていた。ニコデモ 人々の勝利者という意味がある。ギリシヤ名であるが、ユダヤ人には普通に見られる名前である。指導者(ギ)アルフォン) 支配者、指揮官などの意味もあるが、ここではサンヒドリンの議員を指している。地方には小法廷であるサンヒドリンがあったが、エルサレムの大サンヒドリンは71人の議員からなる。ユダヤの最高自治機関であり、最高法廷であった。

2 夜イエスのもとにきて 保守派、旧守派のパリサイ人は、宮きよめを行なったイエスを敵視した(ヨハネ2・

14以下参照)。ニコデモはイエスに教えをこう姿を仲間に見せるわけにはいかず、権威ある民の指導者としての外聞もあった。世の光であるイエスの元に、暗い夜訪問したニコデモの姿は、彼の心の闇を象徴している。先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています まわりくどく聞こえる。ニコデモは、ためらいながらも、それを越えて、わざわざイエスに会いに来たのであった。漠然とであったとしても、イエスの内に真実を見出していった。

3 よくよくあなたに言うておく イエスが強調されるとき使う表現で、ヨハネが特徴的に書き残している。ヨハネ福音書中に24回用いられている。新しく生れなければ、神の国を見ることはできない ニコデモのあいさつに対して、イエスの答えは唐突に聞こえる。イエスの関心はニコデモの魂にあった。ニコデモの必要を大胆に指摘されている。霊的な新生についてである。新生は神学用語であって、聖書中には使われていない。イエスとニコデモとの対話は、新生の教理を導き出す最有力の聖書個所である。悔い改めと信仰によって、新生はなされる。「新しく生まれる」は、再び生まれる、上から生まれると

も訳される。内容的には、再び、神によって、新しく生まれるのである。

**4 人は年をとってから生れることが、どうしてできすか** ニコデモはイエスの言葉を、この世の規準で測って不可能だと言っている。イエスの言葉は、神の規準で捉えなければならぬ。年令を条件に持ち出すこの言葉から、ニコデモは相応の年配であつたと推測される。

**5 水と霊とから生れなければ** この言葉は多くの解釈を生んできた。旧約聖書に表されている水の働きの重要点は、心の悪や罪を洗い清めることである(エレミヤ4・14、エゼキエル36・25他)。水が汚れを洗い流すように、聖霊が心に働いて、新しく生まれ変わることができる。

**8 風は思いのままに吹く** 風は目には見えない。しかし、風が吹く時に音が聞こえ、風の流れを感じることができる。聖霊も目には見えないが、その働きを否定することはできない。風(ギブニューマ)は聖霊と訳すことが圧倒的に多いが、この文脈では風と訳されなければ意味が通らなくなる。

**9 どうして、そんなことがあり得ましようか** ニコデモはなお疑問を持った。しかし、ニコデモは疑問を持つ

ても、イエスを否定しなかった。イエスの言葉を理解しようと反芻し続けたと思われる。後にニコデモは、イエスに対するパリサイ人の誤った断定を正し(ヨハネ7・45以下参照)、アリマタヤのヨセフと共にイエスの遺体を葬った(ヨハネ19・38以下参照)。

**12 地上のことを語っている** 新生は神による業であるが、人間の魂の内になされることとして地上のことである。天上のことを語った場合 神の独り子イエスが人類の罪をあがなうために死に渡され、永遠の命を与えるものとなる。神が備えられた大いなる救いの真理である。

**13 天から下ってきた者** 言うまでもなく神の子イエスを指す。救いは律法主義者のパリサイ人が主張するように、地上の人間の努力でなされるのではない。天上の神から与えられなければ、人は救いに与<sup>あずか</sup>れない。

**14 モーセが荒野でへびを上げたように** パリサイ人が崇敬するモーセの故事が引用される。青銅のへびを仰いだ者のみが救われた。イエスは十字架に上げられることによって救いを成就された。

**参考図書** Leon Morris (NICNT), G. R. Beasley-Murray (WORD), 他



## 聖書

ヨハネ3・1〜15

## タイトル

新しい命に生きよう！

だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない。

ヨハネ3・3

## 目標

新生の必要を知り、キリストを信じて新生の恵みを頂く。

## 導入

(松浦みち子)

新しい年を迎えました。一年の計は元旦にあり、ということわざを知っていますか？ 年の初めに新鮮な気持ちで、目標や計画を立てて新しい年を出発することですね。みなさんはどんな計画をたてましたか。「よし、今年には聖書を始めから終りまで読もう！」こんな計画も素敵ですね。名古屋では日本聖書協会主催の聖書クイズ大会があり、みごと優勝者には北海道旅行がプレゼントされました。クイズです。「もう一度、赤ちゃんになるにはどうしたらよいかと考えた人はだれでしょう？」

## イエス様を訪ねたニコデモ

ある夜のことです。一人のおじいさんが暗い夜道を歩いてイエス様を訪ねてきました。ニコデモという名前の

とても偉いユダヤ議会の議員でした。町の人々からは「ニコデモ先生は立派な人だ」と言われ、聖書をよく読み、何でも知っている学者でもありました。しかし、どうしてもそのような立派な先生が、イエス様を訪ねてきたのでしょうか。しかも、夜に。ニコデモは、以前からイエス様の教えや病気を治される奇跡の業を見聞きして、ぜひ、イエス様に尋ねたいことがあったのです。そこで、人目を避けてイエス様を訪ねました。「先生！ あなたのなさるすばらしい業をみれば、先生が本当に神から遣わされたお方だとわかります」と。ニコデモはどうすれば神の国に入れるのかを知りたかったのです。

## 新しく生まれる

イエス様は澄んだ瞳でニコデモを見つめられ、「よく聞くのですよ。人は新しく生まれなければ神の国を見ることはできない」とおっしゃいました。「えっ、新しく生まれるって？」ビックリしてニコデモは目をぱちくり。「イエス様！ こんな年寄りの私がもう一度、お母さんのお腹に入って赤ちゃんになるんですか？ そんなこと、できっこないですよ。無理です」。ニコデモはイエス様のおっしゃったことがさっぱりわかりません。彼の



1月

3日

## 礼拝メッセージ例

心を見通して「新しく生まれる」ということは、体のことではありません。誰でも水と霊とから生まれなければ、神の国に入ることはできないのです」と言われました。いったいどういうことでしょう。ニコデモはますます、ちんぷんかんぷんです。イエス様は、わたしたちの魂が新しく生まれる必要があることを教えられたのです。では、新しく生まれるために必要なことは、何でしょう。一生懸命がんばってよいことをすれば神の国に入れるのでしょうか。いいえ、自分の力によるのではなく、イエス様を信じてバプテスマを受け、神様の子どもとして新しく生まれることです。それは神様の霊の働きによるのです。皆さんは、風を見たことがありますね。手で捕まえることもできません。でも、木の葉やカーテンが揺れているのを見たり、音を聞くと風が吹いているのが分かります。同じように、霊の働きによって人が新しく生まれることは目には見えませんが、その人の生き方そのものが変えられるので、知ることが出来るのです。

### 見上げて信じる

そこでイエス様は、ニコデモがよく知っている旧約聖書のお話をされました。それは、モーセがイスラエル

の人々をエジプトから救い出し荒野を旅していたときのお話です。つらいことがいっぱいある旅の中で、人々は神様に不平をいい逆らったために、神様からの裁きを受けて、多くの人が毒蛇にかまれました。その時、神様はモーセに「青銅で蛇を作り、それを旗ざおの上につけ人々の前に高く掲げなさい」とお命じになり「その青銅を見上げた人は命が助かる」と約束されました。不思議な方法ですね。「何だって！ そんなバカなことあるか」といって仰がなかった人は毒が回って死にました。しかし、神様のおことばを信じて青銅の蛇を見上げた人は助かったのです。イエス様は「その青銅の蛇のように私はまもなく十字架にかけられます。そして、その十字架を見上げ、信じる人が救われるのです。そのために私は天から下ってきたのです」とニコデモにお話しになりました。「あつ、そーか、神から遣わされたイエス様を信じるなら、神の子として新しく生まれ、天国に入れていただけるのだ」とわかりました。

あなたも、イエス様の十字架を見上げて信じ、新しい命に生きる神様のこどもになりましょう。

♪じゅうじか わが力♪ (ホ115)

# 聖書 ルカ9・21〜27 テーマ 十字架を負って従う

## 序論

(石田高保)

人は自分の最期を予想することはできない。しかし主はそれができた。イエスが神の子であり、自分に対する神のご計画が見えていたから。十字架にはりつけになって死ぬことと、復活することは神より啓示されていた。主の十字架と人間の十字架では次元は違うが、手放さないと失い、手放すと得るといふ原則は同じである。

## 一、手放さないことの損失

イエスは弟子たちに言われた、(人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日目によみがえる)。私たちはイエス自身がどんな死に方をするかを正確に預言していることを見逃すわけにはいかない。誰でもできるだけ楽な死に方をしたと考える。それなのに主は他人事のように自分の最期について語っている。つまり主は自分の死ぬことを神からの使命として織り込み済みであったということになる。主はまことに神から遣わされた神の子で

ある。私たち人間の罪を贖<sup>あがな</sup>うために自分から十字架にはりつけになる道を選択した。さらに死に方だけではなく、三日目に甦ると正確な日数を挙げて預言していることも見逃せない。しかし弟子たちにとって死の預言はとうてい受け止めがたかったので、復活という希望に満ちた預言は耳に入らなかつたかもしれない。この言葉によつて主は復活することをはっきり予知しておられたことがわかる。甦ることによつて信じる者に永遠の命を約束された。

〈だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい〉。主は「自分が十字架で死ぬことと、私たちの負うべき十字架をダブらせているということとは、神からの使命について語っていることになる。つまりクリスチャンの使命とは、自分の十字架を選び取ること。それはひとことと言えば「自分を与える生き方」。これは無理強いされるものではない。生まれながらの人間は、人からも神からも何かを得よう得ようとする。それが悪いわけではないが、それだけでは神の望まれる生き方ではない。神は私たちが「あなたがたの内にキリストの形ができる」

ことを願っておられる。神は私たちを低く見積もっているのではなく、私たちへの評価と期待は高い。この与える生き方を阻もうとする誘惑は日常的にある。たとえば損得勘定に負けて、自分を守りたくなる。「へば将棋、王より飛車を可愛がり」というように、神様より自分の都合を大事にしてしまうこともある。さて、人のためと思っても手放せないでいるものが何かあるだろうか。

## 二、手放すことの利益

「自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを救うであろう」。内村鑑三がクリスチャンの事業家の相談に対してこう言ったという。「桶の水を手前にかき込もうとすると水は向こうへ逃げてゆく。しかし水に向こうへやろうとするとかえって手前にやってくる」。損して得を取れというようなことだろうか。イエスの最期はまさにこのとおりで、十字架にかかって自分の命を差し出したが、三日目には甦っている。まさに自分の命を失いながら命を見いだした。

「人が全世界をもうけても、自分自身を失いまたは損したら、なんの得になるのか」。損得勘定が働くことは

悪いわけではないが、最後は損得を超えて自分の十字架を負う、つまり与える生き方を選ぶことは、回りまわって私たちの得になると言っている。良きサマリヤ人のたとえでも、祭司やレビ人はこの旅人に関わったら自分はどうな不利益があるかを考えたが、サマリヤ人はこの旅人に関わらなければこの人はどんな不利益があるかを考えた(キング牧師)。このみ言葉はフランシスコ・ザビエルが修道士として生涯をささげるきっかけとなったものという。彼は貴族であったが、パリ大学に留学中、イグナチオ・デ・ロヨラの影響を受け、富貴な生活を送ることよりも、神に身をささげて福音を伝えることを選んだ。

## 結論

さて私たちにとって「自分を捨て、日々自分の十字架を負うて」イエスに従うとはどんなことだろうか。それは自分を与える生き方であり、その前提となることは、人に与えられる何かを持っているということ。神と共に生きていくことを人に示すことができる。あなたの与えられているものの中で、身の周りの人のために貢献できるものは何だろうか。何かを得ようとするばかりではなく、何かを与えようとする生き方を選び取るうではないか。

## 研究資料

(宮澤清志)

この箇所は、通常18節からの流れの中で語られる箇所である。様々な注解書を開いてみても、この箇所はどのような流れの中で語られていることのほうが多い。しかし、本日のテーマが「十字架を負うて」というテーマであり、目標が「十字架に向かい歩まれたキリストを覚え、十字架を負い従う者となる」ということから、21節からの箇所が開かれているのであろう。教会学校での説教時間が限られていることから考えても、十字架に徹する説教を心がけたいものである。

なお、この箇所は、マタイ16・13、19、マルコ8・27、29にも並行記事として記述がある。この並行記事にもよく注意して当たっていただきたい。

## テキスト

**21 この事** 前節までの「ペテロの信仰告白」によって示されたイエスのメシヤ観。**だれにも言うな** イエスはなぜこのように自分がキリストであることを固く口止めされたのであろうか。実は、この告白は、ペテロが自らの意志でした告白ではなく、神ご自身がペテロの口を通

してさせた告白であり(10・22、マタイ16・17参照)、神が選んだ人々にのみわかる告白である。従って、他の人々にはこの告白の真の意図はわからないものであるから、イエスはこの告白を誰にも話さないようにと命じているのである。もつといえ、マタイの記事では、この告白をしたペテロ自身も、この告白の真の意味は理解できていなかったようである(マタイ16・22、23)。

**22 人の子は必ず多くの苦しみを受け**… この部分は新改訳では「ねばならない」と結ばれている。それが神の計画であることを指し示している表現である。「人の子」が、「受難のしもべ」(イザヤ53章)と結びついて語られているところに、イエスのメシヤ理解の特徴がある。「神のキリスト」(20)は、まず受難のしもべでなければならなかったのである。**長老、祭司長、律法学者** ユダヤ教の最高議会であるサンヘドリンの議会のこと。

**23 みんなの者** 弟子たちだけに向けて語られたのではなく、五千人の群衆に向けられたものでもあろう(14)。ついできたい とは、一時的ではなく、永続的な従い方を求めたものであり、それは時間的な長さだけではなく、「日々」(この言葉はルカのみが用いている言葉であ

る」という言葉にみられるように、日常生活における瞬間性、あるいは具体性をも伴った意味を持つ。**自分を捨て** ただキリストだけを知って、もはや自分自身を知らないということである。自分の財産、野心、愛着、利害その他自らの一切のことをキリストの脇へ置くことである。**自分の十字架を負うて** 十字架のくびきを負うこと（マタイ11・29）。イエスの教えを行う際の自己放棄を求めた言葉。**わたしに従ってきなさい** わたしに従い続けなさい、という意。なお、この3つの命令「自分を捨て」「自分の十字架を負うて」「わたしに従う」ということは、それぞれ別の命令ではなく、弟子としての生き方であり、全き献身と同時に、神の御心への日々の服従を求める言葉である。

**24 自分の命**（ブシケ） はかない自然的生命を指す。しかし同時に後者の「自分の命を失う者」との関連でいえば、この節では2つの「命」について語っている者と思われる。「この世の命」と「永遠の命」である（ヨハネ12・25参照）。また、前節との関連でいえば、この「命」は、「生き方」とも理解しうる言葉である。いずれにしても、イエスはここで、命にいたる道と死に至る道とを示

しておられるのである。**失う：救う** 神の裁きの時、神に受け入れられるか神に退けられるかという、終末的な意味合いを持つ言葉。

**25 前節の「自分の命」**が、ここでは「自分自身」と言い換えられている。前節の視野がさらに広げられて、ここでは「全世界をもうける（得る）」とある。全世界と、その中のすべてのものを得るのは一時的には得のようであるが、それによって神から遠ざかり、最後には永遠の命を失う（損する）ことになれば意味がないのである。

**26 恥じる** 恥じて否認すること。この世におけるイエスとその言葉とに対する態度が、終末における「人の子」（イエス）の態度を決するのである。

**27 この言葉の聴衆は弟子たちや群衆たちである**（23）。**すると、ここに立っている者** とは、聴衆である弟子たちや群衆たちであり、実際、**死を味わわない者** とは、イエスとその言葉を恥じずに日々十字架を負ってきた弟子たちということになる。 **味わ（う）** 深く体験すること。

**参考図書** A. T. Robertson, Word Pictures in the New Testament II (BROADMAN) 他

## 聖書

ルカ9・21～27

## タイトル

十字架を負って

## 暗唱聖句

だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。

マタイ19・23

## 目標

十字架に向かい歩まれたキリストを覚え、十字架を負い従う者となる。

## 導入

(土屋開夫)

新しい年がはじまりましたね。今年はさる年、来年はとり年、再来年はいぬ年です。猿、鳥（キジ）、犬といえは、昔話の桃太郎についていった忠実な動物たちですね。私たちは桃太郎ではなく、今年も小羊イエス様に従って行きましょう！ イエス様はきびだんごよりもはるかに素晴らしい、永遠の命をくださるのですから！

## イエス様にいつていつくのは楽しい？ 苦しい？

ところでイエス様は「わたしについてきなさい」とか「わたしに従ってきなさい」と、よく言われましたが、み

んなはイエス様についていくのは楽しいと思いますか？ それとも苦しいと思いますか？

たぶん、どちらもあると思います。お弟子さんたちがイエス様についていく時も、楽しい時と苦しい時と両方あったと思います。例えば、イエス様が結婚式で水をぶどう酒に変えられたり、五つのパンと2匹の魚で大勢の人々をお腹いっぱいにさせたり、また病氣の人を癒やしてあげて、人々が「この方のなさった事は、何もかも、すばらしい」と褒めたたえた時、そんな時はイエス様についていく事が嬉しくて、楽しくて、「私はこのイエス様の弟子なんだぞ」と誇らしく言いたくなったでしょう。けれども、イエス様についていくという事は苦しい事もある事をイエス様は話されました。

## 十字架の苦しみを予告される

イエス様はお弟子さんたちに、やがてご自分が必ず多くの苦しみを受け、人々から捨てられ、そして遂に殺された（十字架）、そして三日目によみがえる事を予告されました。最後に素晴らしい復活があるのですが、そこまでに多くの苦しみを通らなければならぬのです。そんな



に人々から苦しまれられたりするイエス様についていくのはとても大変で辛い事だと思っています。

イエス様が人々から愛され、喜ばれ、歓迎され、人気がある時、イエス様についていく事は楽しいでしょう。でもイエス様が人々から憎まれ、バカにされ、悪口を言われ、人々が離れ去っていく時、そのイエス様についていく事は苦しい事でしょう。

例えば、学校のクラスでお友達が、「この前、教会のクリスマス会に行ったらスゴク楽しかったぜ。プレゼントももらったし」「いいなあ、オレもいけば良かった」と話していたら、「ボク、実は毎週、教会に行ってるんだ。イエス様を信じてるんだ」って言えるかも知れません。でも、「なんか教会学校とか行ってるやつってキモイよな」なんて話したら、それでも「ボク、実はイエス様を信じてるんだ」って言えますか？

### ある牧師先生の話

ある教会にT先生という牧師先生がいました。牧師というお仕事は嬉しい事もたくさんあります。誰かがイエス様を信じた時は一番嬉しいのです。でも辛い時もあり

ます。人から悪口を言われる時もあるのです。ある時、T先生はとても辛い事があって、牧師を辞めたいと思いました。そんな時、「パッション」というイエス様の映画を観に行きました。そしてイエス様がとても苦しうに十字架に架かっておられる場面を観ながら、イエス様についていく気がしたそうです。「わたしはあなたのために、この十字架に架かった。これはわたしにしか負えない十字架だ。これをあなたが負う必要はない。でもあなたが負うべき十字架がある。あなたの十字架は何か？」そうしてT先生は、牧師を辞めないで、もう一度イエス様についていく決心をしたそうです。

### まとめ

「自分の十字架」というのは、イエス様が与えられるあなたの役割、使命の事です。それが何なのか、祈りながらゆつくり考えてみましょう。そしてイエス様に日々ついていきましよう！ 苦しい時もあるでしょう。でも、苦しみの後には喜びが、寒い冬の後には温かい春が、十字架の後には復活があるんですよ！

♪歩こうイエスの道を♪(PW15)



# 聖書 ルカ9・28～36 テーマ 変貌のキリスト

## 序論

(石田高保)

よく知らない人のことを信用することはできない。聖書は、イエスにあらゆる角度から照明を当て、安心して人生をイエスに任せられるようにしてくれる。

## 一、キリストを知る

私たちにとってイエスとはどういうお方だろうか。クリスチャンでない人にとっては、四大聖人の一人、西洋の神様、人類の偉大な教師、キリスト教の開祖かもしれない。当時の弟子たちにとってはどういってお方だっただろうか。ペテロは弟子たちを代表して「あなたこそ、生ける神の子キリストです」と言い表している(マタイ16・16)。つまりこの私を救って下さるまことの神ですと。どのように救って下さるのか。自分から進んで十字架にかかり、死ぬことによつて、私たちの罪を贖<sup>あがな</sup>って下さった。まったく罪も汚れもない人となられた神だからこそ、私たちの罪を取り除くことができる。ではあなたにとつてイエスとはどういとお方だろうか。

イエスはペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人だけを連れて高い山に登った。いつもと違う、ただならぬ雰囲気を感じていただろう。(祈っておられる間に、み顔の様が変わり、み衣がまばゆいほどに白く輝いた)。弟子たちは三年半、主と一緒に生活してきたが、今までにない姿に変貌するのを見て、畏<sup>おそ</sup>れおののいた。これは明らかにイエスが普通の人間ではないことをあらわしている。主が人間として生まれてこられたことは間違いない。しかしその生まれ方は尋常ではなく、父親の介在がなく、聖霊によつて身ごもられた。これは神が人間となるために計画された独創的な方法である。生まれてからは普通の人間として歩まれたが、30歳より神の国を宣べ伝えるようになってからは、著しい奇跡によつてご自分が神であることをあらわされた。しかし今日の出来事のように、変貌するという形であらわしたことはなかった。後日、ペテロはこの出来事を振り返つて「イエスは父なる神からほまれと栄光とをお受けになった」と表現している(Ⅱペテロ1・17)。なぜイエスは神々しく変貌した姿を弟子たちにお見せになったのか。それはご自分が間違ひなく神の子であることを明らかにするためである。

## 二、キリストを見る

これを見た弟子たちの生涯にどのような影響が及んだか。終生忘れえぬ経験となり、弟子たちの信仰を強めた。「わたしたちが、そのご威光の目撃者なのだから：わたしたちもイエスと共に聖なる山にいて、天から出たこの声を聞いた」(Ⅱペテロ1・16～18)、ペテロはイエスの変貌する姿をこの目で見たけれども、私たちも聖書を読んだり、メッセージを聞いたり、みことばを分かち合ったりするとき、主の姿を信仰の目で見る事ができる。私たちにとって栄光のイエスを見るとは、突き詰めれば主をいつも目の前に置くこと。それは心をかき乱す思いや出来事に目を奪われるのではなく、(イエスがひとりだけになっておられた)というように、主を目の前に置くこと。天から声がして「これに聞け」と言われた。損得勘定で頭がいっぱいになってしまったとき、祈りをもって主に尋ねること。み言葉そのものと聖書の価値観で物事を判断し、従ってゆくこと。私たちはこの世にありながら、神の国に生きている。目に見えるこの世界は、何の努力をしなくても見る事ができる。しかし目に見えない神の国は、意識的に目を注ぐという努力が要る。栄光に輝くイエスを見るとは、何か神

秘的な体験というのではなく、主を目の前に置き続けるという営み。ふと気がつけばイエスと会話している自分を発見する、そういう世界である。

〈すると見よ、ふたりの人がイエスと語り合っていた〉。その内容は(イエスがエルサレムで遂げようとする最後のことにについて)、つまり十字架の死である。モーセは律法の代表、エリヤは預言の代表、つまり旧約聖書全体は人類の救いを完成するキリストの死に全神経を集中している。モーセとエリヤはイエスに言ったかもしれない「主よ、神の子であるあなたのほかに人類の罪を背負って救いの道を開くことのできる方はいない」と。

## 結論

〈これはわたしの子、わたし選んだ者である〉。この声は一義的にはイエスに語り掛けられたものである。しかし二義的には、私たちに語り掛けられていると受け取ってよい。キリストの血潮のゆえに、罪ゆるされ、神と和解した人は、神の目には神の子であり、その存在が無条件に受け入れられている。この声を自分にも語り掛けられていることを自覚し、全的に無限に受け入れられていることを受け取って生きよう。

## 研究資料

(宮澤清志)

いわゆる「変貌山のキリスト」といわれる出来事である。この出来事は、キリストの生涯の中でもクライマックスの出来事の一つである。共観福音書（マタイ、マルコ、ルカ福音書）すべてにこの出来事が記されていることからわかる（並行記事としては、マタイ）。しかしルカは様々な点において他の福音書とは異なる書き方をしている。説教のためには、他の福音書の並行記事とルカの表現を比較しつつ、ルカの意図を考察してみるのも参考になる。なお、並行記事としては、マタイ17・1～9、マルコ9・2～10にある。

## テキスト

**28 これらのことを話された後** 先週見たイエスの十字架と復活の預言が、変貌の出来事と関連して語られる。**八日ほどたって** 他の福音書では六日となっているが、どちらも先週の出来事から一週間後の出来事ということであろう。**祈るために** ルカのみが記録する言葉。ルカにとって、この出来事はイエスの祈りの結果なのである。山 ルカにとって、山とは特別な場所である。特に、ル

カにおいて、山は啓示の場であった。

**29 イエスの変容の場面。**ここでも、イエスの姿変わり  
は祈りと結びついて語られる。

**30 モーセとエリヤ** この2人は、それぞれ律法と預言者の代表として登場する。それはすなわち旧約全体の代表者として紹介されているのである。

**31 イエスがエルサレムで遂げようとする最後のことに**  
ついて 最後とは、ギリシア語で「エクソダス」。この言葉は第一義的には「出発」「出立」「旅立ち」を意味する。しかし、このことは、旧約の「出エジプト」の焼き直しという意味を持つ。具体的には、死への旅立ちを通しての復活と天への旅立ち―十字架、復活、そして昇天―ということになる。そしてそれは、「遂げようとする」すなわち旧約においてあらかじめ表された神のご計画の成就ということも意味する。

**32 ペテロとその仲間の者たちとは熟睡していた** この記述もルカにしかない。しかも口語訳以外の聖書は「ひどく眠かった」（新共同訳）、「眠くてたまらなかった」（新改訳）と、熟睡とは異なるニュアンスを持って伝えている。いずれにしても、彼らは「じっとこらえ」（新共同訳）

た結果、主の栄光を見ることができたのである。ここでも「目を覚ます」ことの重要性が語られる。**イエスの栄光の姿** ルカでは、イエスの変貌の様子はあまり触れていない（参照 マタイ17・2、マルコ9・3）。

**33 小屋** 神の住まいとしての幕屋をさす。特に、聖書においては聖所という意味をもち、神の顕現の場、礼拝の場を指す。しかしこの時、ペテロは2つの誤りを犯している。それは、イエスの独自性を忘れてモーセやエリヤと同列に取り扱ってしまったことであり、もう一つはこの小屋にとどまることによって、下山せずに栄光のうちにとどまることをイエスに求めたことである。

**34 雲** 神顕現を暗示する言葉であると同時に、神の栄光のしるしでもある（出エジプト24・15～18、40・34～35）。**彼らをおおいはじめた** この「彼ら」が、モーセとエリヤを指すのか、あるいはペテロ、ヨハネ、ヤコブを指すのかは、様々な解釈がある。

**35 これはわたしの子** この言葉は詩篇2・7に由来する言葉である。この言葉はイエスの受洗の時にも語られた言葉であるが（3・22）、イエスがメシヤであることを示している。わたしの選んだ者である この言葉はイザ

ヤ42・1に由来する言葉である。イザヤ42章は、イザヤ書の「4つのしもべのうた」といわれる箇所の一つである。特にこの箇所は「苦難のしもべ」を示す言葉である。主イエスの受洗の時にも天からの言葉は語られている

が、両者では語りかける対象が異なる。イエスの受洗の物語では「あなたは」とあり、語られた対象はイエス本人であった。一方この箇所では「これ」とあることから、天からの声は弟子たちに対する語りかけである。弟子たちに、イエスがどのようなお方であるかを告知されたのである。先週ペテロを通して語られたイエスへの信仰告白（9・20）の、天からの確認の言葉である。**これに聞け** 33節において犯したペテロの誤りに対する、天の声の修正の言葉。苦難を経て、栄光に入るイエス・キリストに従うようにという言葉である。

**36** マタイもマルコも、弟子たちの沈黙はイエスからの命令であった（マタイ17・9、マルコ9・9）。しかしルカは、この出来事に対する弟子たちの沈黙は、弟子たち自身の判断であったと記す。弟子たちの主イエスに対する無理解の故であるかもしれない。

**参考図書** 1月10日分と同じ。

## 聖書

ルカ9・28〜36

タイトル  
暗唱聖句変貌のキリスト  
これはわたしの子、わたしの選んだ者である。これに聞け。  
ルカ9・35

## 目 標

栄光の主が十字架に向かい歩まれたことを覚え、このお方に従う者となる。

## 導入

(水野晶子)

仮面ライダーやアニメの変身ヒーローは、悪と戦う正義の味方で、強くてカッコいいので人気がありますね。

さて、今日は、イエス様が変身？ 3人の弟子たちはビックリ仰天！ 何が起こったんでしょう？

## イエス様ってどんな方？

私たちは「イエス様ってどんな人？」と聞かれたら何と答えますか？ イエス様はお弟子さんたちに「人々はわたしのことを誰だと言っているか」と聞かれ、「神の言葉伝える預言者の一人」「エリヤ」「バプテスマのヨハネ」だとうわさされていると答えました。するとイエス様は弟子たちに「あなたがたはどう思っているか」と尋ねら

れました。すぐペテロが「生ける神の子キリストです」と答えました。イエス様はそのことをまだ誰にも言ってはいけないと戒めました。イエス様は神の子でありながら、私たち人間を救うために人となってくださり、罪も汚れもないのに、十字架にかかって、私たちの罪の身代わりとなって死んでくださった救い主です。イエス様のことを弟子たちはこれから、見て、体験して、知っていくことになるのです。

## イエス様を見て

イエス様はペテロとヨハネとヤコブの3人の弟子たちを連れて、祈るために山に登られました。イエス様は祈っているうちに、顔がどんどん輝いてきました。あれあれイエス様が着ている衣も真っ白で、まぶしいくらいに輝きだしました。イエス様が変身したのでしょうか？するとそこに、モーセさんとエリヤさんが栄光に包まれて現れました。そして、神様のご計画により、イエス様がエルサレムで最期をとげることにについて、お話をしていたのです。弟子たちはぐっすり寝てしまっていて、はっと気が付いて目を開けると、栄光に輝いているイエ

1月

# 17日 礼拝メッセージ例

ス様とモーセさんとエリヤさんを見ました。話を終えてモーセさんとエリヤさんが立ち去ろうとしているので、あわててペテロは「先生なんてすばらしいことでしょう。ここに小屋を3つ建てましょう。一つは先生のために、それからモーセさんとエリヤさんのためにも一つずつ」と、何を言っているのかわからないまま口走っていました。その時です。光り輝く雲がもくもくと立ち込め、そこにいた皆をすっぽり包み込んでしまいました。弟子たちは怖くて怖くて、がたがた震えだしました。すると雲の中から「これはわたしの子、わたしの選んだ者である。これに聞け」という声がしました。これらのことは、イエス様が変身したのではなく、神の子としての本来のお姿を現されたのです。びっくりするような体験でした。弟子たちは、この時のことを、ずっと後になるまで話しませんでした。弟子たちはイエス様の神々しく輝く姿を見て、天からの声を聞いて、やがて、イエス様が神の子であることを伝える目撃者となりました。

## あなたにとってのイエス様は？

今度是我们が答える番です。イエス様はあなたに

とってどんな方ですか？ 「はい、私にとってイエス様は生ける神の子キリストです。私の救い主です」と答えた私たちにも、「これはわたしの子、わたしの選んだ者である」と神様は語りかけてくださっているのです。私たちは、イエス様の十字架で流された血によって、罪赦ゆるされました。さらに、神様を「アバ父よ、お父ちゃん」と呼ぶことが許され、神の子として無条件に受け入れられています。この恵みのすばらしさを思って、聖書のみ言葉を毎日読んで、神様からの語りかけを聞きましょう。いつも神様の前にいることを意識して、「ねえ、神様」と語りかけ、会話しましょう。神様の御国の考え方を身に着けて、神の子として生きていきましょう。

恥ずかしがり屋で、人の前では祈れなかったKちゃんとM君は夏のキャンプでイエス様を信じ、神の子となりました。その時から、神様のことを知らない人やお友達の前でも、お祈りすることが出来るようになりました。私たちも、具体的な生活の中で、イエス様がいつも一緒だと信じて、イエス様に従っていきましょう。

♪イエスさまについていこう♪（ホ117、イン82）



# 聖書 ルカ9・51〜62 テーマ 前進への決意

## 序論

(石田高保)

イエスは公生涯の最終段階で、エルサレムにのぼり、死をもって人類の贖いの道を開こうと心を定められた。ここに父なる神に至るまで従いとおそうという覚悟が見られる。

## 一、イエスの従順

エルサレムに上ろうとするイエスの覚悟には並々ならぬ気迫があり、弟子たちに畏れを覚えさせるほどであった。この覚悟は「天に上げられる日が近づいた」、つまり人類に救いの道を開くための死を意識してのそれで、最も親しい弟子たちでも立ち入ることのできない聖域を感じさせたであろう。弟子たちは主が父のみこころを受け取り、一度決断したら頑として譲らない方であることを知っていた。それは時に彼らの常識を超えるもので、啞然とするほかないこともあった。たとえば宮きよめの出来事、というより事件である。そこまでしなくてもよいのではないかと思われるような、弟子たちでさえ理解しかねる行動であった。藪

をつついて蛇を出すようなことであつたが、神の正義を貫くためには、利権をむさぼる商人や権力者である祭司たちを敵に回すこともいとわなかった。主はどんなに損をしよう、悪評が立とうと、自分の身に災いが降りかかることになろうと、父なる神のみ心に従うことを最優先された。何しろ十字架という究極の災いを覚悟しておられた方である。主は次のみ言葉を心に刻んでおられたかもしれない。「わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります」(詩篇40・8)。ここに神を畏れるがゆえに人を恐れず、どのような利害得失も超えて行動する弟子の道を見ることができないではないか。

ガリラヤからエルサレムに上るためにはサマリヤを通るのが近道であつたが、ユダヤ人と反目するサマリヤ人はイエスの一行に宿を提供するのを拒んだ。すると激しやすいやコブとヨハネは無礼なサマリヤ人をさばいてはどうかとイエスに提案すると、主はこれを厳しくお叱りになった。さばくことは天の父のなさる事といっさい委ねておられたからである。しかし後日、サマリヤにはリバイバルが起こり、サマリヤ人の教会(群れ)が生まれている。このこと



を思つて私たちは主のふところの広さに驚嘆すべきではないだろうか。

## 二、わたしたちの従順

主は同じ弟子入りを求める人でも、それぞれ違った取り扱いをしておられる。キリストの弟子とはどういうものか、いわば弟子道を示して、それでも従うかどうかの面接をしていると見ることもできる。あなたに喜んで従いますと申し出た人には、58節のように、「わたしの弟子となることは楽ではないぞ、ほんとうに耐えて行けるか？」というような言葉で従う覚悟をためしておられる。ちょうど建築資金が十分でなかったために家を完成させられなかったたとえ話に通じる。現代において文字どおりこのレベルを要求されたら誰も弟子となろうとはしないだろう。ただ言えることは、イエスに従つて行つたからといって、この世での成功が約束されているわけではないということである。み言葉に本気で従つたために不利益をこうむることも起きるだろう。よく祈つて選択したのに、かえつて裏目に出るという事態もあるかもしれない。しかし一時的には馬鹿を見た気がしたとしても、私たちが主により頼んでいる限り、最終的な責任はイエスがとって下さることを知っておくこ

とは助けになるのではないか。

一時の熱心で弟子になろうとする人がいる一方、「言われたとおり従いますがもう少し待ってください」というような人には、「何の言い訳もせず、即座に従いなさい」というようなことを言われる。こちらのほうが日常的に起り得ることではないか。「きみにさからいし時こそ多けれ、従いまつりし日はそもいくばく」（新聖歌376）と、まことに身につまされる。ではどうすればよいのか。まずは私たちの思いに働きかける御霊の声を聴き分けることである。そしてとにかく従つてみることである。自分の思いだけで決断するのではなく、主に尋ねるという習慣を身につけることである。なれないうちは当たりはずれもあるかもしれないが、この霊的トレーニングを繰り返すことによつて精度が上がつてくる。何しろイエスは私たちの身の周りの人々にご自分の愛と聖さを表したいと願つておられるからである。

## 結論

イエスは父なる神に誠実に従われた。私たちもそのようにイエスに従つてゆこう。それはみ言葉と、内なる聖霊のささやきに敏感となり、それに従うことである。

## 研究資料

(辻林和己)

ルカ福音書は、この個所から新たな段落に入る。ガラヤからエルサレムへ、いわゆる「ルカの大旅行記述」(9・51～19・40)の始まりである。今回の個所のルカ9・51～56、61～62はルカ独自の個所。ルカ9・57～60の部分の並行個所はマタイ8・19～22。

## テキスト

51 天に上げられる日 「日」は原文では複数形。主イエスが十字架、復活、昇天を経て、神の右の座に着かれ(22・69)るといふ一連の出来事を通して、主の救いのみわざが成されていく「日々」。その方に顔を向けられ主が受難への道を勇気を持って踏み出されたことを示す。

52 サマリヤ人の村 ユダヤとサマリヤの敵対関係は北王国イスラエル末期、アッシリヤによるサマリヤ陥落に遡る(列王下17・24以下参照)。BC721年、アッシリヤは北イスラエルを滅ぼし、サマリヤの住民を追放した。そしてそこに異民族を移住させたことによりユダヤ教と異教の混交宗教を産み出すことになった。これ以降、ユダ

ヤ人とサマリヤ人の深刻な対立が続くようになる。主はそのサマリヤを通って、エルサレムに行こうとされた。

54 弟子のヤコブとヨハネ 二人は主が「雷の子」と呼ばれる(マルコ3・17)ほど「直情的」であった。天から火をよび求め、弟子たちは、天から火を下した預言者エリヤ(列王下1・9～12)と主イエスを重ね合わせて観ていたことが伺える(4・26参照)。そして彼らは他のユダヤ人たちと同様に、このときはまだサマリヤ人への民族的偏見や敵意を取り除かれてはいなかった。

55 彼らをおしかりになった 「しかる」(ギリ)エピティマオー)は非常に強くしかるときに使う言葉。ペテロの姑の熱病(4・39)、風と荒浪(8・24)、汚れた霊(9・42)を主が「しかられた」ときも原文では同じ動詞が用いられている。サマリヤ人が裁かれたり、滅びることは主イエスの願われることではない。彼らもヨハネ福音書に記されているように、主を信じるようになることを主は願っておられる(ヨハネ4・39～42)。

57 ある人 マタイ8・19では、「律法学者」。

58 人の子 主イエスがご自身を指して言われるときに使われる表現。旧約聖書では、「神的存在」を示す場合(ダ

ニエル7・13)や、弱く、はかない存在である人間(詩篇8・4)を表わすときに用いられている。主イエスがこの呼称を用いられるときは、ご自身が神の御子でありながら、地上ではメシアとしての使命を果たすために、人間としての制約のある中で歩んでおられることを示唆している(マルコ9・31等参照)。まくらする所がない原文を直訳すると「頭を横たえるところを持たない」。主に従って行く者は、ぜいたくな生活を期待することは出来ない。現実の生活の中で、時には宿泊する場所もないような、様々な苦難が伴うことを覚悟させる言葉。

59 またほかの人に マタイ8・21では「弟子のひとり」。

まず、父を葬りに… 当時のユダヤにおいても家族の葬りの義務は優先された。死人を葬ることは、死人に任せ… 後者の「死人」は、主イエスへの信仰をまだ持たず永遠の命を得ていない人、すなわち「霊的に死んでいる人」を指して言われた言葉である。…出て行って、神の国を告げ広めなさい このとき、地上での使命を果たそうとしておられる御自身に従い、神の国の到来を告げ広げるといふ緊急の務めが与えられること、それがどれほど尊く、価値ある第一の聖務であるかをこの人に教え

ようとしておられる。

61 …、まず家の者に別れを言いに… この人は主に従う決心をしたつもりであったが、まだそれ以外のことがより大事であった。その一つが家族への愛情であった。旧約聖書では、預言者エリシャがエリヤに従うときに、父母に会いに行かせてほしいと願い、許されている(列王上19・20～21)。しかし、ここではそれ以上の緊急性が彼に求められている。

62 手をすきにかけてから、うしろを見る者は、… 主イエスは農作業の比喩を用いて、心で二つのものに仕えようとしていることを戒められる。手をすきにかけてから、心配したり、何かに対して未練があるなら、すきを真つ直ぐに目標地点まで進めていくことができない。そのように心を定めて一心に主に従わないならば、最後まで主に従い通すことはできない。何よりも主を愛しているか、どこまでも従うかが問われる(マタイ10・37、ルカ14・26参照)。

参考図書 レオン・モリス『ティンデル聖書注解 ルカの福音書』、榊原康夫「ルカの福音書」『新聖書注解 新約1』(以上、いのちのことば社)、他

## 聖書

ルカ9・51〜62

## タイトル

ただ一点を見つめ進むイエス

## 暗唱聖句

手をすきにかけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくないものである。

ルカ9・62

## 目標

決然と十字架に向かわれたキリストを覚え、十字架を負い従う者となる。

## 導入

(松浦みち子)

春になるとお百姓さんが田んぼや畑をたがやします。土をやわらかくして種をまいたり、苗を植えるためです。現在は農業も機械化されて、今では見ることがむずかしい光景ですが、昔は牛や馬などに「鋤」という土を掘り起こす農具をひかせて作業しました。いったん鋤に手をかけて作業を始めると、終わるまでうしろを振り向くことはありません。なぜなら、前を見て作業するのみだからです。イエス様がエルサレムに向かわれる姿もよく似ていますよ。

## エルサレムに向かつて

イエス様は弟子たちと共に、おもにガリラヤ地方で神

の国の福音を宣べ伝えておられました。しかし、約三年間のガリラヤ伝道を終え、いよいよご自分の使命である十字架への道を進み始められました。イエス様自身が天に上げられる日が近づいたことを悟られたからです。神の都エルサレムへの道はご自分の死を意味することでもありましたが、何もかもわかった上で、イエス様は決意されエルサレムの方へ顔を向けられたのです。

## 弟子たちの様子

さて、ガリラヤからユダヤ地方に南下する旅の途中、先にサマリヤ人の村に何人かの人々を宿の準備や食事の準備のためにつかわされました。ところが、村人たちは旅の一行がサマリヤを通過するだけで、とどまるつもりがないことがわかるとイエス様を歓迎しようとしませんでした。なぜなら、せっかくイエス様が村に来られたなら祝福にあずかりたいと願ったからです。しかし、イエス様のお気持ちはエルサレム一筋だったのです。彼ら村人の態度に憤慨したヤコブとヨハネは「イエス様！天から火をよび求めて彼らを焼き滅ぼしましょうか」。まあ、なんとひどいことを！ 歓迎されなかったといって仕返しをしようとする弟子たちの心の狭さをイエス様

はお叱りになりました。自分の思うようにならなければ相手をやっつけるという自己中心な考えはイエス様のお喜びにならない態度ですね。

### 弟子として従う者の道

さらに旅路を進めていくと、ある人がイエス様に「あなたがおいでになる所ならどこへでも従ってまいります」と言って近寄ってきました。するとイエス様は「きつねには穴があり、空の鳥には巢がある。しかし、わたしには枕するところがない」と言われました。イエス様に従う者の覚悟を試すことばですね。快適な生活や将来の安定した生活を投げ打ってもよいという覚悟があるかとの問いかけです。次は、イエス様の方から声をかけられました。「わたしに従ってきなさい」と。するとその人は「父親が死んだので、まず父を葬りに行かせてください」と答えました。イエス様は「その死人を葬ることは、死人に任せておくがよい。あなたは、出て行つて神の国を告げひろめなさい」と言われました。イエス様ってなんて冷たい方！と思わないでください。福音を伝えるように命じられていて、どうしても身動きが取れない時、この世の常識を優先させるか、福音を優先させるか

を問われているのです。また他の人は「主よ、従ってまいります、まず家の者に別れを言いに行かせてください」と、申し出ました。イエス様は「手をすきにかけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくないものである」と言われました。前を見ながらうしろも見るという二股をかけた生き方に警鐘を鳴らされたのです。イエス様はエルサレムの方に顔を向けられ、もう二度と生きて帰ることはないという決意の中で語られたことばです。心して聞きたいと思います。

(みち子さんのあかし) 学校の教師になることが幼い頃からの夢でした。就職試験にも合格し、いよいよ四月からは小学校教師としての道が開かれるその時でした。二月になって毎夜の如くイエス様の十字架上の幻が現れ、茨の冠から流れ落ちる血汐を滴らせながらイエス様が語りかけられるのです。「わたしはあなたを愛している。あなたはわたしのためにどう生きるのか」と。眠れぬ夜が何夜も続いた後、「主よ、すべてを捨ててあなたに従っていきます」と決心し、教育委員会に内定取り消し依頼の手紙を出し、献身の道を歩み出したのです。

♪したいまつる主の♪ (新聖歌396)

# 聖書 ルカ17・11～19 テーマ 恵みへの感謝

## 序論

(福井文彦)

ルカ独特の記事で、当時、この重い皮膚病は恐ろしい病気とされていました。その重い皮膚病の人、十人をイエスがいやされました。ところが、そのことをイエスの所に帰って来て感謝したのは、九人のユダヤ人ではなく、サマリヤ人ただ一人だけでした。

## 一、主にいやしを求めた

イエスはエルサレムに行かれるとき、サマリヤとガリラヤとの境に沿って東に向かわれました。そのイエスがある村に入られるとそこにいる十人の重い皮膚病の人たちに出会われました。当時、重い皮膚病にかかった人は、〈彼らは遠くの方で立ちどまり〉とあるように、律法によつて一般の人々に近づいてはならないと決められていたのです。そのために、「汚れた者、汚れた者」と叫んで、人が近づくのを防がなければなりませんでした(レビ13・45～46)。

ですから、重い皮膚病の人ほど孤立無援なものはいな

かったのです。ところが、16節で明らかのようにその中に一人のサマリヤ人がいました。ユダヤ人とサマリヤ人は本来犬猿の仲で、敵対していました。しかし、重い皮膚病ということで社会から疎外されているという同じ境遇のために、一緒に過ごしていたのです。

彼らはイエスにお出会いと、このお方なら何とかしてくださるに違いないと信じました。それで、声を張り上げて「イエスさま、わたしたちをあわれんでください」と哀願したのです。

## 二、見ないで信じる信仰

たぶん彼らは、イエスがそれまでに病人に手をつけていやされたことを聞いていたと思います。ところがイエスは彼らをご覧になつて不思議なことを言われたのです。〈祭司たちのところに行つて、からだを見せなさい〉と。

普通なら、まず、重い皮膚病がいやされるのを見て、祭司がきよめの儀式をします。それがすむと、はじめて彼らは一般の人との共同生活、すなわち社会生活が許され、営めるようになるのです。ところがこの時には、重い皮膚病はいやされていませんでした。それなのに、イエスは〈祭司たちのところに行つて、からだを見せなさ



い」と言われたのです。何とも不可解な命令です。

この重い皮膚病の十人は、「イエスが、〈祭司たちのところに行つて〉、と言われたのだから、必ず道の途中でいやされるに違いない」と、見えるところによらないで主の言葉を信じたのです。そして、イエスが言われた通りに従いました。すると、〈行く途中で彼らはきよめられた〉のです。

重い皮膚病がいやされたことをお互いが確認した時、彼らは嬉しくて嬉しくて跳び上がって歓喜したことでしよう。

### 三、恵みへの感謝

これらの十人の重い皮膚病の人のうち九人は、いやされたことを喜びながらも、いやしてくださいだったイエスに感謝するために帰って来ませんでした。病気がいやされるという外側に表われた奇跡は、彼らの救いとはならなかったのです。

ところが、〈そのうちのひとり〉は、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめたたえながら帰ってきて、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であつた。サマリヤ人だけは、祭司のもとに行つてき

よめられた証明をしてもらう前に、イエスの所に帰つて来ました。

そして、感謝にあふれて「いやし」よりは「いやし主」、「賜物」よりは「与え主」と、イエスのもとに帰つて来て、大声で神をほめたたえました。すなわち、神に栄光を帰し、遜ひたつて主の霊の恵みを受けるために心を開きました。ここに〈ひれ伏して〉とありますが、これは「自分の一生を神にささげる」という決意の表明です。

するとイエスは、〈立つて行きなさい。あなたの信仰があなたを救つたのだ〉と言われました。今や彼は、重い皮膚病がいやされる以上に大切な魂の救いをいただき、新しい人生を歩み出したのです。

### 結論

クリスチャン・ライフの特徴は感謝です。サマリヤ人のように主イエス（十字架）によって罪を赦ゆるされ、きよめられた私たちは、永遠なる究極的救いの恵みに生きる者とされたのです。これが純粹な感謝のゆるがない根拠です。すなわち私たちは聖霊とみ言葉により、環境の変化によって左右されない恵みへの感謝に生きる者とされたのです。



## 研究資料

(小平徳行)

重い皮膚病のいやしの出来事であるが、ユダヤ人とサマリヤ人の姿勢を対比する事により、神の求めている信仰がどういいうものであるかを教えている。

## テキスト

11 エルサレムへ行かれるとき ルカ9・51からはじまるエルサレムに上る旅の途中。サマリヤとガリラヤとの間を通られた ガリラヤはユダヤ人が住み、サマリヤはサマリヤ人が住む地域であり、両者は互いに敵同士だと思っていた。この表現からは、サマリヤとガリラヤの境界線に沿って通ったと考えられるが、境界線を横切って渡ったと考えることもできる。

12 彼らは遠くの方で立ちどまり 重い皮膚病にかかった人は、律法によって、一定の距離を保たなければならぬ。また、自ら「汚れた者、汚れた者」と叫んで、人が近づくのを防がなければならなかった(レビ13・45～46)。16節で明らかにされるが、十人の中にはサマリヤ人もいた。ユダヤ人とサマリヤ人は犬猿の間柄であるにもかかわらず、彼らは重い皮膚病ということで社会か

ら疎外されていたゆえに、一緒に過ごしていたのである。  
14 祭司たちのところに行って、からだを見せなさい 重い皮膚病の人が、きよめられたと認められるための一般的な手続き。この病はきよさに関わることゆえに、その患部が本当に治ったかどうか確かめるのは祭司であった(レビ14・2～20)。イエスは、あたかも治っているかのように行動することを命じることによって、彼らの信仰を試した。十人のうちにはサマリヤ人もおり、サマリヤ人にはゲリジム山に聖所があり祭司がいた。したがってエルサレムの神殿に行く者と、ゲリジム山に行く者に分かれたであろう。行く途中で彼らはきよめられた。彼らがイエスの言葉に従った時、いやしの奇跡は起こった。かつてナアマンの重い皮膚病がきよめられた時も、信じて従うことが必要だった(列王下5・14)。同様に、この十人が、きよめられる前から祭司のもとに向かったのは、見えるところによらず、主の言葉を信じたからである。彼らにはこのような信仰があった。その信仰によって彼らはいやされたのである。

15 そのうちのひとり、大声で神をほめたたえながら帰ってきて 彼が神をほめたたえたことは、彼がいや

されたことが神のみわざであると理解したことと、このことをすべての人に喜んで知らせようとしたことを示している。十人の群れは病であった時は一つになっていたが、いやされた後は、ユダヤ人はユダヤ人、サマリヤ人はサマリヤ人に分離してしまった。

**16-18 ひれ伏して** 礼拝の姿勢を意味する。**ほかの九人は、どこにいるのか** この九人はユダヤ人であったと思われる。**この他国人** 聖書中ここにしかでてこない言葉で「ほかの生まれ」という言葉。異邦人改宗者はエルサレム神殿の一番外側まで近づくことができるが、その先は入れない。そのことを禁じるために、そこに立てられている立て札にこの言葉が使われていた。エルサレム神殿の神の恵みの中に入ることが許されているユダヤ人は、帰って来なかった。この神の恵みに近づくことを許されない「この他国人」ひとりだけが、神を賛美するために戻ってきたのである。ユダヤ人であるイエスが、このサマリヤ人である自分をも顧みて下さったということへの驚きと感動が、この感謝と賛美の背後にあったのであろう。

**19 あなたの信仰があなたを救った** 病気が治るほどの

信仰は、十人が十人とも持っていた。しかし、イエスの御国の力に真にあずかって救われる信仰は、感謝して神をほめたたえるために帰って来たサマリヤ人だけが持っていた。**救った** 新改訳では「直した」となっているが、直訳は「救った」である。イエスはこのサマリヤ人にいやし以上のことがなされたことを言おうとしたのである。いやしと救いは異なる。いやしの奇跡的な体験は、神を賛美し、イエスのもとに戻ってくるという心の中の大転換が起らない限り、救いには直結しないのである。この心の中の大転換をイエスは「信仰」と呼んでいる。九人のユダヤ人は、重い皮膚病がいやされてユダヤ人社会に復帰し、元の生活に戻ただけであった。彼らの姿勢はイエス・キリストの救いに対して示したユダヤ民族の態度にはかならない。これに対し、このサマリヤ人はイエスのもとに来て、新しい人生を歩み出したのである。

**参考図書** 熊谷徹「ルカの福音書」『実用聖書注解』（いのちのことば社）、The IVP Bible Background Commentary: NT, Leon Morris, Luke (Tyndale) 榎原康夫『ルカ福音書講解』（教文館）

## 聖書

ルカ17・11～19

タイトル  
暗唱聖句

「ありがとう」を忘れずに！

そのうちのひとりは、自分がいやされたことを知り、…イエスの足もとにひれ伏して感謝した。

ルカ17・15～16

## 目標

受けた恵みに感謝し、神をほめたたえる者となる。

## 導入

(松浦みち子)

幼い頃「ありがとう」と「ごめんなさい」というふたつのことを親から教えられたことでしょう。この二つのことはとても大切な言葉ですね。ありがとうは漢字で書くと「有り難う」。辞書にはめったに受けることの出来ない恩恵・好意・配慮に接して、身の幸せをしみじみと感じる様子とあります。しかし、「喉元過ぎれば、熱さ忘れる」ということわざがあります。どんな熱いものも飲み込んでしまえば熱さを忘れるように、苦しみや悩みで必死に助けを求めたときでも、過ぎ去ってしまうとその辛さを忘れ、また助けられたことを感謝することも忘れてしまうという意味です。皆さんはどうでしょうか？

## 10人の病人たち

ある村に、重い皮膚病を患った10人の病人がいました。この人たちは、村を通られるイエス様に出会い、遠く離れたところから大声で叫びました。「イエスさまー。わたしたちをあわれんでください。」叫び声をあげる彼らをご覧になったイエス様の心には、この病人たちの悲しみや苦しみが痛いほどわかりました。そこでイエス様は彼らに「祭司たちのところに行って、からだを見せなさい」とさっそく言われました。みんなはびっくりしました。重い皮膚病が治ってもいけないのにどうして祭司のところに行けるでしょう。当時、重い皮膚病の人たちは、病気が治ったら、祭司のところに行き体を見せて点検してもらい、確かに治ったと認めてもらう必要があったのです。しかし、イエス様のお言葉です。彼らは走って祭司のところに行きました。あらっ、フシギです！ 走っていくうちに体は軽くなり、重い皮膚病の醜いただれはなくなり、赤ちゃんの肌のようにすべすべになりました。彼らは天にも昇るような気持ちになって、「やったあー。治ったぞおー。早く祭司に見てもらって家に帰ろう」と口々に叫びながら町にはいって行きました。

1月

## 31日 礼拝メッセージ例

### もどってきた人

おつとつと！ 10人の中の1人が、顔を輝かせてイエス様のところに引き返してきました。その人は病気が治ったので嬉しくて嬉しくてたまりません。大声で神様をほめたたえ「神様はなんてすばらしいかただろう。ハレルヤ！ ハレルヤ！」と叫びながら戻ってきて、イエス様の足元にひれ伏し「イエスさま、ありがとうございます！」と心の底から感謝を言いました。その人はサマリヤ人でした。イエス様はとてもお喜びになりました。しかし、ちよつとさびしそうでした。「病気が治ったのは10人ではなかったのか。他の9人はどこにいるのか。神をほめたたえるために帰ってきたものは、この外国人しかないのか」。それから「立つて行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ」とおっしゃいました。

### 感謝が神の栄光となるために

9人の病人たちもサマリヤ人と同じように病気が治ったことを喜んだことでしょう。しかし、神様に栄光を帰したのは1人だけでした。ここに私たちに對する大切なメッセージが隠されています。あなたは真剣に祈って祈りがきかれたことがありますか？ その時どうだったの

でしょう。「よかった、よかった」とお祈りがきかれたことを喜んだだけでしょうか？ 神様に栄光をお返ししましたか？

小4で洗礼を受けたある男の子は、小さなことにも神様に感謝を表しました。遠くの大学に行っている兄弟が久しぶりに帰ってきて家族全員で礼拝を守った時「家族そろって礼拝が守れたこと感謝」「なくなった鍵が見つかったこと感謝」「病気のおじいちゃんをお見舞いできたこと感謝」など。月定献金袋の感謝献金の項目にはさまざまな感謝が満ちあふれています。私たちは毎日必要なものを与えられていますね。お願いばかりでなく、神様に心からアリガトウと感謝を表しましょう。そして何よりもイエス様が十字架にかかって救いの道を開いて下さったこと、信じるだけで救われ、天国にいけることを心から感謝しましょう。

「すべてのことは、あなたがたの益であつて、恵みがありますます多くの人に増し加わるにつれ、感謝が満ちあふれて、神の栄光となるのである」(Ⅱコリント4・15)。  
主に感謝することにもなりますように。

♪みんなでたたえましょう♪(こ1、こ改8、ホ2)

# 聖書 ルカ19・28～40 テーマ 主がお入り用なのです

## 序論

(加藤郁生)

四つの福音書は、いずれも主イエスがエルサレムに入城する際に、子ろばに乗られたことを記しているが、ルカによる福音書は、詳しくその経緯を述べている。今週はこの所から学びたい。

## 一、主がお入り用なのです

ルカによる福音書は主イエスによるエルサレムの入城が、主のご主導のもとになされたことを、一つのエピソードをもって紹介している。

主イエスが、ベテパゲとベタニヤに近づかれた時、二人の弟子を遣わし、1匹の子ろばを引いてくるように命じられた。この時、子ろばの持ち主たちへの返答のために教えられたのが「主がお入り用なのです」という言葉である。

この言葉を通して、弟子たちと子ろばの持ち主たち、そして子ろばが三者三様の係わり方をする。

## 二、主に遣わされた弟子たち

主イエスはこれまでも、弟子たちを先に遣わすようなことがあった(9・52)が、ここでは特別な使命があった。それはエルサレムに入城するために乗る子ろばを得ることであった。

弟子たちは、イエスの命を受けて村に赴くが、果たして主イエスが言われたとおり、まだ誰も乗ったことのない子ろばがつかないであることを見る。

普通であれば、子ろばの持ち主を捜しあて、子ろばを借りるか、あるいは買うかして、子ろばを引いてくる所だったろうが、主イエスが命じられたとおり、そのまま子ろばの子を解いていると、持ち主たちから「なぜろばの子を解くのか」と問われた。弟子たちは主から教えられていたので、弁明に努めるのではなく「主がお入り用なのです」との言葉をもって答えた。

このようにして弟子たちは無事に子ろばを手に入れ、役目を果たすことが出来たのであるが、このことは、主の弟子である私たちにも同様である。

私たちはともすれば、この世的な見方でものを考え、行動しがちであるが、大切なことは主のみ旨に従うこと

である。〈主がお入り用なのです〉と、神がご自身の働きのために本当に必要なものを私たちに示されたならば、信仰をもつて祈り求めていくべきなのである。

### 三、主のために備えられた人々

み言葉のチャレンジを受けたのは弟子たちだけではな  
い。子ろばの持ち主たちもまた、主イエスのみ言葉に触  
れ、従った。

なぜ、子ろばの持ち主たちは逆らいもせず、弟子たち  
の言うままに子ろばを渡し得たのか？ これについて、  
持ち主たちが主イエスと知己の間柄であったからではな  
いかという考えもある。

しかし、この場の状況を考えてとそうは考えにくい。  
むしろ神が、聖霊を通して彼らに働いてくださったと見  
ることの方が自然である。父なる神は、子なるイエスが  
エルサレムに入城するにあたって、あらかじめ働いてく  
ださり、ちょうど弟子たちが来た時に彼らがそこに居合  
わせて、〈主がお入り用なのです〉と語る声に応答するよ  
うに備えてくださったのである。主はご自身の宣教の働  
きのために、このようにも人を備えてくださるお方であ  
る。

### 四、主に用いられた子ろば

主イエスが子ろばを用いられたのは、旧約の預言のと  
おり、ご自身が王としてエルサレムに入城することを自  
覚されていたからである（ゼカリヤ9・9）。

しかもゼカリヤ書に表わされている王は、この世の力  
ある王ではなく柔かな王であった。

実際、主イエスがエルサレムに來られたのは、この世  
の王として君臨するためではなく、十字架の御苦難を受  
けられるためであった（9・51、18・31〜34）。故に、主  
イエスの選んだ子ろばは、柔かな王にふさわしい乗り物  
として用いられたのであった。

その意味で私たちも、子ろばのように用いられたい。  
この世では弱く力のない私たちかも知れないが、真に柔  
和な王、平和の君たる主イエスを、背中にお乗せするよ  
うな気持ちをもって、心から主にお仕えしたい。

主はそのような私たちを〈お入り用〉であるとして、  
豊かに祝福して用いてくださるのである。

### 結論

主イエスは、子ろばを用いられた。私たちも子ろばの  
ように、イエス様のお役に立つ者となろう。



## 研究資料

(木村勝志)

「イエスが天に上げられる日が近づいたので、エルサレムへ行こうと決意して、その方へ顔を向け」(9・51)、ひたすらエルサレム目指して進まれた(9・53、10・38、13・22、33、18・31、19・11他)。そして、イエスの地上最後の一週間、受難週が始まる日曜日、「しゅろの枝を手にとり、迎え」られたので(ヨハネ12・1、12・13)、「棕櫚の主日」と呼ばれるようになった。実際にエルサレムに入城されるのは45節。

## テキスト

28・31 これらのこと(11・27節)を言ったのち 時は過ぎ越しの祭を目前に控えた頃である。イスラエルがエジプトの奴隷状態から解放されたことを記念する過ぎ越しの祭が近づくと、人々はいつも感情的になっていた。当時ローマ帝国の支配下にあったイスラエルにとって、この時期はローマの支配から救い出されることを切望する時で、多くの人々は、旧約聖書の中で度々預言されている約束のメシヤが現れて、ローマの支配下から解放してくださると期待していたからである。ちょうど過ぎ越

しの祭の時期にイエスがエルサレムに近づかれたため、イエスこそ待ちに待ったメシヤで、「神の国はたちまち現れると思つて」(11節)、人々の興奮が高まっていた。そこでイエスは人々の誤った期待を正すために「ミナの手を語られ、神の国完成までには時間がかかること、ご自分は人々から拒絶されることを暗示されたのである。これらのことを言ったのち、イエスは人々から拒絶されて十字架につけられ、救いを完成するためにエルサレムに入城されるのである。オリブという山 メシヤ出現の場所として重要な地(ゼカリヤ14・4)。ベテパゲ正確な場所是不明であるが、ベタニヤ近隣の村であろう。ベタニヤ エルサレムの南東約3キロメートル(ヨハネ11・18)、オリブ山の麓にある村。ふたりの弟子 当時、使者は通常二人ずつ遣わされた。まだだれも乗ったことのない 神聖な用途に必要な不可欠な条件である(民数記19・2、サムエル上6・7)。ろばの持ち主は、過ぎ越しの祭の巡礼者に対するもてなし、あるいは有名なラビを助ける榮譽と考えて貸したのである。

33 持ち主たち 複数の持ち主がろばを共有していたのは、彼らが貧しかったことを示し、次節の「主(キユ



「リオス」と同語を用いることによって、イエスこそ至高の主であり、真の所有者であることを示そうとしている（詩篇24・1）。

35〜37 そのよろばの上に… ゼカリヤ9・9〜10の成就であることを、マタイ（21・4〜5）とヨハネ（12・14〜15）は明記するが、異邦人読者を対象とする本書（1・1〜4）では省略されている。王は時にはろばにも乗ったかもしれないが、力強い軍馬に乗って現れるのが普通であった。ろばは、軍事や行進のためではなく民事のために用いられ、平和の人である商人や祭司が乗った。それゆえこれは、ローマの凱旋行進のような入城ではなく、柔和で平和な入城であることを示している。敷いた未完了時制は、行進の間、人々が次々と上着を敷き続けたことを示している。これは王の即位式ときに行う行為である（列王下9・13）。本書は、並行個所が省略する群衆の熱狂ぶりを詳しく描写している。祭の巡礼者たちはしばしば喜びの叫びをもって歓迎されたが、この時はそれ以上に大きな認識をもつての歓迎であったことを37〜40節は示唆している。

38 過ぎ越しの祭の間、ハレル詩篇（113〜118篇）が歌わ

れた。後にこれらの詩篇はやがてもたらされる救いを預言する詩と理解されるようになった。その一連の詩のクライマックスである118・25〜26を弟子たちは賛美し続けたのである。イエスはかつて、詩篇118・22をメシヤ預言の詩として引用された（ルカ20・17）。並行個所（マタイ21・1〜11、マルコ11・1〜11、ヨハネ12・12〜19）では「ホサナ（アラム語の音訳。私たちを救ってください、の意）」と記されているが、異邦人読者を対象とする本書では省略されている。主の御名によってきたる王 イエスが全地を統べ治める王であることはもはや隠しておくことはなくなった。天には平和… イエスご降誕時の御使いたちの賛美を想起させる（2・14）。

39〜40 石 神殿の石のことであろう（19・44、20・17）。石が叫ぶ 不可能なことが起こることを意味する 諺（ハバクク2・11）。群衆がイエスをメシヤとして歓迎するのを止めるのはもはや不可能であることをイエスは確信しておられた。

参考図書 注解書 W. L. Liefeld (Expositor's), L. Morris (Tyndale) 他。その他 The IVP Bible Background Commentary: NT 他。

## 聖書

ルカ19・29〜40

## タイトル

あなたが必要！ お献げしよう

## 暗唱聖句

主がお入り用なのです。 ルカ19・34

## 目 標

キリストが必要としてくださることを覚え、自分を主におささげする。

## 導入

(和田 治)

「あれ？ どこいつちゃったつけ。今、どうしてもぜんざいが食べたいって思ったおさ子ちゃん、粒あんの缶詰を開けるための缶切りがなくて困ってます。「あつた！ 缶詰の蓋を開けるには絶対これがあるんだよね〜！」今日の暗唱聖句の「お入り用」って、「いる！ 必要だ、ないと困る」という意味の丁寧な言葉なんです。じゃあ、「主がお入り用なのです」って、私たちとどんな関係があるんでしょうか？ 一緒に聖書から学びましょう！」

## ろばの子に乗ってエルサレムに

「さあ、向こうの村へ行きなさい」。オリブ山のふもととのベテパゲとベタニヤの村に近づいた時、イエス様は二人の弟子にそうおっしゃいました。「村にはいったら、ただだれも乗ったことのないろばの子がつかないであります。

それを解いて、引いてきなさい」。えっ？ じゃあ、泥棒しろってこと？ 「もし誰かから『なぜ解くのですか』と言われたら、『主がお入り用なのです』と言いなさい」。

さあ、どうなったでしょうか？ 村に入ったら：「あつ！ ろばの子がつかれてる！」イエス様の仰る通り！ そこで、恐る恐る綱を解いていると、その持ち主たちが言うのです。「おい、こら！ なぜろばの子を解くんだ？」「主がお入り用なのです」と答えると、あれ不思議！ 持ち主たちは、それ以上、何にも言いません。神様がこの人たちの心に働きかけてくださったのですね！

弟子たちはそのろばの子をイエス様のところへひいてきました。そして、その背中に自分たちの上着を敷き、イエス様をお乗せしたのです。イエス様がろばの子に乗って進んで行かれると、大ぜいの人々が次々と上着を脱ぎ、道に敷き並べました。

オリブ山のふもとに差しかった時、大勢の人たちが大喜びで、神様をほめたたえ始めたのです。「神様がお立てくださった私たちの王に祝福があるように！」と高き天で平和が、神様に栄光があるように！」

わたしたちはろばの子に乗って

2月

## 7日 礼拝メッセージ例

ちょっと待って……。王様が行進するとき、ろばになんて乗らないですよ。そう、「馬」こそ王様が乗るのにふさわしいではありませんか？ 実は、戦いでの勝利を表す馬と違って、ろばは「平和」のシンボルなんです。力で抑えつけるのではなく、平和をもたらす優しいイエス様がお乗りになるのに、ろばこそぴったり！ 荷物を運ぶだけの、弱々しいろばの子、でも、イエス様のお役にたつために備えられ、選ばれたろばの子でした。

私たちはイエス様を信じ、イエス様のお役に立ちたい、と願っている神の子どもたちですよ。つまり、イエス様をお乗せしたろばの子のようなものです。普段、かつこいいことや目立つこと、力強いことのために用いられることはなくとも、イエス様をお運びするろばの子。「主がお入り用なのです」と言われたように、イエス様が「あなたが必要だ、あなたがいないと困るのだよ」と仰るような、大切な無くてはならない人なんです！

### お献げします！

ろばの子がイエス様に用いられたように、私たちも用いていただきたいですね！ ではどうすれば良いのでしょうか？ 三つのことを心に留めましょうね。

まず、弱くても大丈夫です！ 「僕は馬のように力強く進めない！」「私なんて弱虫でちっぽけだからイエス様のお役になんてたてない！」。いいえ！ ろばの子がそうであったように、私たちも弱いままでお役にたてますよ！

次に、イエス様の願われる通りに進むことです。イエス様が真つすぐ行きたいのに、ろばの子が脇道にそれて勝手に草をむしゃむしゃ……これじゃあ、お役に立てませんよね。イエス様のお心、イエス様のお言葉に、どんなことでも、どんな時も、「はい！」って従いましょう。

そして、お献げすることです。30節に「まだだれも乗ったことがないろばの子」ってありましたね。それは、「イエス様のためだけのもの、イエス様の御用のためにきよく取り分けられているもの」という意味があるのです。「主よ、私はあなたのお役に立ちたいのです。お献げします、用いてください！」と祈る人を、主なる神様は用いてくださるのです！

### まとめ

「主がお入り用なのです」、そう、あなたが必要なのです！ 御思いに応え、喜んで自分を献げましょう！

♪わたしたちはろばの子♪（ホ99、イン91）

# 聖書 ルカ21・1～4 テーマ 神に喜ばれる献げ物

序論

(高橋頼男)

この「やもめの献金」の記事の中でドキッとすることが二つ出てきます。一つは、イエスは金持ちたちの献金する様子や貧しいやもめが献金するのを注意深く〈見られ〉たことです(私は礼拝の時、信徒の方が献金する様子は出来るだけ見ないように心掛けているのですが…)。さらに、それぞれが献けた献金について〈あの貧しいやもめはだれよりもたくさん入れたのだ〉と献金を比較して評価されたことです。

この記事の真意と私たちの献金についても一度考えてみましょう。そして、神が喜ばれる献げ物について深く思い巡らしましょう。

## 一、金持ちたちの献金(1)

金持ちたちが宮で献げ物をしていました。神殿の壁に取り付けられた真鍮しんちゆうのラツパのような形をした献金口に、袋から取り出された硬貨がジャジャラと大きな音をたてて投げ入れられました。相当な額が投げ入れられ

たことがわかり、周囲の人々は思わず振り向きしました。彼らは金持ちで、有り余る中から投げ入れたのです。残りを十分取っておいて、余裕をもって献げたのです。彼らは、人前でのこのような献金行為が好きでした。

## 二、やもめの献金(2、4)

ひとりのやもめが来て、誰に知られることもなく、そつと献げ物をしました。彼女がささげたものは、彼女の手握られていた汗ばんだレプタ銅貨二つでした。高速道路では、これ以上遅く走ってはならないという「最低制限速度」という規定がありますが、レプタ二つは、神殿においてこれ以下のささげものを献げてはならないという「最低制限献金額」という規定すれすれのものでした。2レプタ以下の献金は献げ物とはみなされず、むしろ神を侮辱する行為とされたのです。

## 三、「だれよりもたくさん入れた」(3)

それぞれの信者によって献げられた献金に多い少ないがあるのでしょうか。少なくともこの場合、主は「ある」と言っておられるのではないのでしょうか。では、何を基準に多いか少ないかが定められるのでしょうか。単に金額の多い少ないではありません。それは、「私たちに委

ねられた収入総額に対する献金額の比率(%)、あるいは、「その人が神にささげた後に残った金額」という言い方ができるかもしれません。

J・ウエスレーは、「自分の必要最低限の生活費を除く残り金額をささげ、決して余分な金額を持たないように気を付け、神と財布とを一つにした」といいます。全ての信仰者がこのような献金ができるとは限りません。しかし、このように所有に対して全く聖別された、シンプルな経済感覚を少しでも身につけたいものです。私たちの情性的な献金が戒められ、主の前に新しいチャレンジを受ける必要があります。

#### 四、神に喜ばれる献げ物

このやもめの献金「レプタ二つ」に込められ、表現された信仰こそ、主がご覧になって喜ばれ評価される献げ物です。それは、少なくとも次のような献げ物です。

① 神への感謝 これは神に対する溢れる感謝の表現となった献金でした。

② 神に対する信頼 彼女がささげたレプタ二つは、彼女の生活費であり、しかもその全部でした。生活費は自分のいのちを支えるための最後のお金です。そのい

のちのお金をささげるとは、自分の一切の必要は、神が必ず満たしてくださるとの信仰と信頼があつてこそ可能です(ピリピ4・19)。「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう」(マタイ6・33)。

③ 神への献身 彼女が2レプタを献げても、献げなくても、神の宮の倉には何ら変わりがありません。しかし、彼女の持つ全てである2レプタをあえて献げることにより、彼女は卑しい自分自身をささげたのです。

「自分自身をまず、神のみこころにしたがつて、主にささげよ」(IIコリント8・5)。自分を献げることのない献金は、必ず献げ惜しみをします。

#### 結論

献金は神への感謝、信頼、献身です。主は私たちのためにどれほどの献身をして下さったでしょうか(ピリピ2・6-8、Iヨハネ3・16)。また私たちはこの地上で旅人、寄留者であることを覚えましょう(ヘブル11・13)。自分とその生涯を主に献げ、委ねられたものを大胆に主のために献げて用いていきましょう。神に献げられた自己とその生涯こそ神が喜ばれる献げ物なのです。

## 研究資料

(小平徳行)

やもめの献金の場面である。この出来事の直前の段落は、イエスが律法学者について語っているところで、彼らは厳しいさばきを受けるべき者であった。彼らは「見えのために長い祈をする」(20・47)と言われているように、人に見られるために義を行う偽善者であった。しかし、このやもめは対照的に、人々からは評価されない献金をした。レプタ二つが、やもめにとつてどのような意味を持っているのかは、人々には隠されていたのである。その隠れた事を見ておられたのがイエスであった。

## テキスト

1 さいせん箱 この時代のユダヤのさいせん箱は箱にトランペット状の口がついたもので、それが神殿の「婦人の庭」(ここまではユダヤ人の婦人も入ることができた)に13箱置かれていた。それぞれの箱には、札が付いていて目的別に区分けされていた。ささげる人は、自分の名前と何のためにささげるかを言つてささげ、箱の脇には神殿を管理している祭司が帳面のような物をもつて

立っており、誰がいくら献金したかを言つて記帳した。イエスは金持ちたちが見栄のために献金して得意になっていることに心を痛めておられた。献金(ギ)ドーラ(義務としてではなく自発的なささげ物を指す。見られることは審判者として權威の座に着くことを連想させる。イエスはここでなされるすべての行為を見抜き、正しくさばかれるお方である。

2 貧しい(ギ)ベニ克蘭) この語はルカが通常用いておらず、新約聖書でもここだけにしか用いられていない。やもめの貧しい状態を強調しているのであろう。律法学者たちが、やもめの家を食い倒していたことも、やもめの貧しさの一因であった(20・47)。やもめは一世紀のユダヤにおいてお金を稼ぐ方法がほとんどなく、教会はやもめを助ける義務があった(使徒6・1、1テモテ5・16、ヤコブ1・27)。レプタ二つ これは極めて少額であった。「レプタ」は「小さい、薄い」の意味。レプタは最少額の銅貨で、2レプタは1デナリの64分の1であり、ローマの貨幣では1コドラントに相当する(マルコ12・42)。1コドラントは当時ローマの銭湯一回の入浴



料であった。タルムードによると2レブタは特別な場合を除いて、献金に課せられた最低額であった。

**3〜4 よく聞きなさい** 直訳すると「わたしは真実をあなたがたに言う」となる。他の人からはだれからも目を留められることのないやもめの小さな行為に対して、主はそれを厳粛な事として語られた。**だれよりもたくさん入れたのだ** イエスの言葉を文字通り訳すならば「(他の)だれよりも多く」ではなく「(他の)すべて(人々の)ささげものを合わせた分)よりも多く」となる。イエスはささげ物において金銭的な価値がすべてではない事を示している。大事なのは、ささげた量ではなく自分のために確保した量である。もしも基準が、ささげた後にどれほど残っているかということであれば、やもめは確かに、他の金持ちたちにはるかに勝って多くささげたとと言える。なぜなら金持ちたちはあり余る中からささげたので、たくさん手元に残っていたが、やもめは乏しい中から持っているすべてをささげたからである。これこそ真のささげものである。**持っている生活費全部** イエスはこれが彼女の全生活費であることを知っておられた。彼女は自分の明日の生活を守ってくださる神の愛の配慮に

対する信頼があったのであろう。これは自暴自棄や悲壮感から行なったことではなく、神への献身の思いから喜んでなされたことである。ささげることは信仰に直結している。この心からの献身的なささげものは、どんなに少額であっても神の御前に尊いのである。

このやもめの行為は、隠れたことを見ておられる神の前でなされたことであつたが、このささげものの意味をイエスが弟子たちに明らかにした。後に、ベタニヤで一人の女性が高価なナルドの香油をイエスに注ぎかけた時も、その行為の意味を明らかにされたのはイエスであつた。イエスは人間の行為一つ一つにおいて、目に見える所だけでなく、その人の背景も、その心もすべてをご存知の上で正しく評価してくださるのである。

**参考図書** 熊谷徹「ルカの福音書」『実用聖書注解』、榊

原康夫「ルカの福音書」『新聖書注解』(以上いのちのこ  
とば社)、『The IVP Bible Background Commentary: NT,  
Leon Morris, Luke (Tyndale) なし』



## 聖書

ルカ21・1〜4

## タイトル

神様に喜ばれる献げものって？

## 暗唱聖句

あの貧しいやもめは、だれよりもたくさん入れたのだ。

## 目標

ルカ21・3  
すべてを「ご存じ」の神に喜ばれる献げ物をする。

## 導入

(和 田 治)

2年生の献介君は、教会学校の礼拝の中の、『献金』の時間が大好き！ 「僕をこんなにも愛していただくさる神様に、『ありがとう！』っていう気持ちを込めて献<sup>ささ</sup>げるんだ！」でも、前から気になっていることがありました。「僕にとっては精いっぱいだけど、たったの二十円。こんなので、神様は喜んでくれるかな？」ある日曜日、教会学校の礼拝で、ちょうど今日の聖書のみことばからメッセージが語られました。そして分かったんです、神様に喜ばれる献<sup>ささ</sup>げものってどんなのが！ 「ああ、良かった！ 神様は僕の献金喜んでくださってるんだ！」

皆さんはどんな気持ちで献金をしていますか？ それは神様に喜ばれているでしょうか？ 今日、神様に喜ばれ

る献<sup>ささ</sup>げものってどんなのか、いっしょに学びましょう。

金持ちの献<sup>ささ</sup>げものと、貧しいやもめの献<sup>ささ</sup>げもの

さて、宮の中でのことです。イエス様は、金持ちたちが次々と献金箱にお金を投げ込む様子を見ておられました。箱の上には、金属でできたラッパのような形の献金口がついていました。『ジャラジャラジャラー！』ある金持ちが大きな音を立てました。思わずみんなが注目：。「おおー！ あの人はずいぶん大金を投げ入れたぞー」。お金持ちたちは、こんなふうに献金するのが大好き！ だって、周りの人たちが感心してくれるんですもの。

と、そこへ貧しい身なりの女の人が入ってきました。「やもめ」といって、夫がすでに死んでしまつて、残された女性です。彼女はレプタ二つ、今の日本のお金でいえば、十円玉を二個、そつと投げ入れました。それは、これ以上安い献金は受け付けられません、と決められた、ぎりぎりの額だったのです。「ふん！ 恥知らずなやつだ。あんなちよっぱりの献金、よくやるよ、まったく！」バカにする人の声が聞こえてきます…。

献<sup>ささ</sup>げる人のすべてを知っておられたイエス様

ところが、イエス様がおっしゃいました。「よく聞きな

さい。あの貧しいやもめはだれよりもたくさん入れたのですよ」。え？ たったのレプタ二つなのに？ あの金持ちよりも？ どうして？ イエス様は続いてこうおっしゃったのです。「ほかの人たちはあり余る中からほんのわずかなだけ献げたのに、この女は乏しい中から持っている全部を献げたからです」。さすがイエス様！ いくら献げたか、よりも、どれだけ残っているのか、どんな思いで献げたのか、ちゃんと知っていてくださったのですね。

### 神様に喜ばれる献げもの

このやもめが献げた「レプタ二つ」のように、本当に神様に喜ばれる献げものって…？

1 「神様、ありがとう！」 私たちが生きるために必要なもの、たとえば、食べ物や着るもの、学校やお店、そして僕たち私たち自身も、全部ぜんぶもともとは神様からいただいたものですよね。それを思えば、心いっぱい『ありがとう！』って伝えずにはおれませんよね。その心がかもった献げものこそ、神様に喜ばれるのです。

2 「神様、信じます！」 やもめは生活のためのお金全部を献げました。神様を守ってくださるって信じていたからです。私たちも神様を心から信じて献げるなら、本当

に喜ばれるのです。

3 「神様、僕を、私を献げます！」 やもめが献げたのは、実は自分自身でした。「神様、私を献げます。どうかいやしい者ですが、お使いください！」って。献金について書かれている聖書の個所に、こうあります。「自分自身をまず、神のみこころにしたがつて、主にささげ…」（Ⅱコリント8・5）。つまり、献金は、本当は、自分自身を献げるしるしなのです。でもこれは、「イエス様が僕の、私の身代わりにどれほど苦しんで下さったか」が分からなければできません。今、もう一度イエス様の十字架を思い巡らしてみましよう。すべてを献げて僕を、私を愛してください。くださったお方の愛に応えましよう！

### 結論

献金は神様への感謝、信頼、献身です。今日学んだことを胸に、心から、精いっぱい献げましょう！ 額が多かろうと少なかろうと、もし、神様に感謝しながら、信じて、献身の思いを込めて献げるなら、必ず神様は喜びくださいます。献介君が献げた献金のようにね…！

♪ 今こそキリストの愛に応えて♪（詩・曲 田中英昭）  
※教会教育室HPで楽譜をダウンロードできます。

# 聖書 ルカ22・39〜46 テーマ 十字架に向かう祈り

序論

(高橋頼男)

イエスのゲツセマネの祈りの個所です。主は十字架にかかる直前の数時間、一人で祈る時を持たれました。最後の晩餐を終えられたイエスは、弟子たちと共に「いつものように、いつもの場所に、祈るために」行かれました。イエスがエルサレム滞在中は、いつもこの場所を祈りの場としておられたのです。ゲツセマネに着くと弟子たちには祈るよう命じられ、ご自身は少し離れたところに行き、一人で祈り始められました。この時のイエスの祈りはいつもとは全く違う祈りでした。〈汗が血のしたたりのように地に落ちた〉とあるように、祈りにおいて苦闘するイエスの御姿が出て来ます。天から御使いが現れてこの祈りを支えました。イエスはこの祈りの中で、十字架を負われました。このイエスのゲツセマネの祈りを通して、祈りとは何であるかを教えられます。

## 一、苦しみの祈り

祈りは慰めであり、力を受ける時であり、楽しいもの

です(新聖歌190)。しかし、時に祈りは苦しみを伴います。私たちは困難に直面し、問題を抱えているとき真剣な祈り、苦しみの祈りをします。

イエスのゲツセマネの祈りは、単なる苦しみを超えた壮絶な祈りです。〈イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた〉(その汗が血のしたたりのように地に落ちた)とあります。〈苦しみもだえて〉は、死の恐れを表現するものです。主は立つておられないほど困惑し、恐れ、ひざまずき、ひれ伏し祈られました。なぜ、これほどまでに死を恐れられたのでしょうか。その理由は、ご自分がこれから架<sup>か</sup>かられる十字架の出来事がどのようなものであるかをよくよく知っておられたからです。全世界の罪を聖い神の御子が全身で負われるのです。そのことにより、今まで経験されたことのない父なる神との断絶が起ころうとしているのです。他の誰も味あうことのない苦しみです。罪のない神の御子が、罪人として十字架に向かつて進んで行かれるお苦しみです。いくら人が言葉を尽くして説明してもその御苦しみとそこそこを伝えることは出来ません。イエスは私たちの身代わりとなつて苦しみもだえ、死んでくださいました。そして、

これ以上ないほどの苦しみの祈りをされました。

私たちも時に苦しい祈りをし、心の痛みを覚え、重荷に耐えかねて主の前にひれ伏すことがあるかもしれせん。その時、イエスが私のためになされたゲツセマネの祈りを覚えましょう。「彼は、…十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。あなたがたは、弱り果てて意気そそぐしないために、罪人らのこのような反抗を耐え忍んだかたのことを、思いみるべきである」(ヘブル12・2～3)。

## 二、神への服従の祈り

イエスは、この苦しみの祈りという試みを、父なる神への服従を通して勝利されました。この祈りの重要な点は、〈父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください〉にあります。祈る時、神様への願いを何でもありのまま言い表すことは良いことです。しかし、イエスは〈この杯をわたしから取りのけてください〉と願われながら、さらに〈わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください〉と祈られました。この時、イエスは、父なる神に従うか否かを、

ご自分の命をかける形で問われておられたのです。もし父のみ心に従うなら、イエスは黄泉に下ることを選び取り、御父との断絶を経験されるのです。それでも人間の贖いのために、あえて苦しみの道を選ばれたのがゲツセマネの祈りです。イエスは同じ祈りを三度も繰り返されたではありません。祈りの重点が、わが思いから、み心へと変えられていく、服従への祈りでした。「キリストは、その肉の生活の時には、激しい叫びと涙とをもって、ご自分を死から救う力のあるかたに、祈と願いとをささげ、そして、その深い信仰のゆえに聞きいれられたのである。彼は御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学び」(ヘブル5・7～8)。ゲツセマネの祈りは御父への完全な服従を試みられた時でした。そして服従こそ勝利の秘訣だったのです。

## 結論

私たちも時に困難に直面したり、大きな問題の中で苦しみを伴う祈りをしなければならないことがあります。このような祈りは、神様への完全な服従が試されています。そこで、神のみこころを選ぶことこそ勝利であることを覚えましょう。

## 研究資料

(小平徳行)

ゲッセマネの祈りである。これは十字架の苦悩を先取りしたもので、<sup>あがな</sup>贖いのわざにおいて不可欠なものであった。この祈りにおいて勝利が決定したと言える重要な場面である。ここから私たちは、従うこと、祈ることを学ぶことができる。イエスの祈りの姿勢は、ご自身が祈りについて教えられた事をそのまま実践して見せてくださっている。マタイとマルコの並行記事と比べると、福音書では物語を短縮して、イエスの祈りの言葉は一回目だけ記されている。またイエスがペテロ、ヤコブ、ヨハネを選んで連れて行ったことも記していない。そして、弟子たちの失敗よりもイエスの祈りを強調している。

## テキスト

39 いつものように 受難週の時だけでなく、その他の時も、この場所で夜、祈ることはイエスの習慣だった。**オリブ山** マタイやマルコは、ここがゲッセマネであることを伝えている。ゲッセマネはオリブ山の西斜面のふもとにある園である。ルカは「ゲッセマネ」という名が異邦人にはなじみがないために使わなかったのかもしれない。

ない。

40 誘惑に陥らないように これは、イエスが捕えられた後に、イスラエルの指導者たちが弟子たちに憎しみを向ける時にイエスを裏切るという誘惑に陥らないようにということであろう。

41 石を投げてとどくほど離れたところへ退き これは近からず遠からずの距離で(30〜40mと推測される)、イエスは弟子たちを離れて祈られた。ここは他の誰<sup>だれ</sup>も近づくことのできない御父と御子だけの祈りの場であった。**ひざまずいて** 当時の習慣では、立って目を天に向けて祈っていた。しかし、この時、特別に重大な時を迎え、苦しみの伴う祈りであったため、ひざまずいて祈ったのであろう。これは最も心砕かれた祈りの姿である。

42 父よ(ギ)バテール 主の祈りで教えられたように、御父に親しく呼びかけている。マルコでは「アバ」という幼子の呼びかけの言葉が加わっている(14・36)。杯聖書においては特に苦難や神の怒り、審判を表わす比喻として用いられている。(詩篇11・6、イザヤ51・17、エゼキエル23・33)。わたしの思いではなく これはイエスの意思と御父のみこころとが対立しているのではな

く、みこころが成ることを強く願っていることを表わしている。**みこころが成るようにしてください** これは主の祈りの第3祈願に等しい。これは形式的に安易に唱えられる祈りではない。神のみこころに自らを明け渡すことが伴う。これは誘惑に際して、悪魔の策略に陥らないためにも必要なことである。

**43 御使が天からあらわれてイエスを力づけた** ここはルカ独特の記述。弟子たちはイエスを力づけることはできなかった。この激しい戦いには御使いの助けが必要であった。

**44 苦しみもだえて** (ギアゴニア) 新約聖書ではここだけに使われている。この苦しみ、恐れは、これから受けようとしておられる十字架による死が、肉体的な死だけでなく、霊的な死を意味していたためである。霊的な死とは神との分離であり、神に見捨てられることである。神の怒りに直面する必要のないお方が、すべての人に注がれようとしている神の怒りを一身に引き受けようとしていたのである。神の怒りの何たるかを知らない私たちには知ることのできない苦しみであった。**ますます切に祈られた** イエスは苦しみの中にお祈り続けら

れた。マタイやマルコでは3度祈られた事が記されており、苦闘の祈りであった。このゲツセマネの苦しみを通してイエスは従順を学ばれ(ヘブル5・8)、勝利して立ち上がることができたのである。**汗が血のしたたりのように地に落ちた** 異常なほどの汗の出かたであった。

**45 祈を終えて立ちあがり** イエスはサタンに勝利し、神のご計画に全面的に服された。祈るべき時は終わり、立ちあがるべき時が来たのである。**彼らが悲しみのはて寝入っている** 弟子たちは祈りの支援者として期待されたが、それに応えることができなかった。彼らは肉体的に疲れていただけでなく、悲しみのあまり、己に打ち勝つことができずに眠ってしまった。悲しみが極まると人間の精神はまどろんでしまい、人を祈れなくさせてしまうものである。

**46 誘惑** 荒野の「試み」(ルカ4・2)と同語であり、この時のイエスの体験は荒野の誘惑と同種の霊的な戦いであったことを思わせる。このゲツセマネの祈りは弟子たちの理解を越えたメシヤだけの体験であり、御使いの助けを受けて悪魔と対決した霊界の大激闘であった。

**参考図書** 2月14日分と同じ。



## 聖書

ルカ22・39〜46

## タイトル

十字架に向かう祈り

## 暗唱聖句

しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。

ルカ22・42

## 目標

祈りの中で神の心を選び取る者となる。

## 導入

(和田 治)

「あゝあ・・・どうしよっかな」。毎週休まず教会学校に来ている治君、ちよっと悩んでいます。実は、治君がものすごく夢中になっているプロサッカーチームの試合が、今度の日曜日にあるんです。お友だちが、「お父さんがチケットを二枚くれて、『治君と一緒に行っておいで』って。行こうぜ!」と誘ってくれたんです。治君はお祈りしました。「神様、行きたいです。でも、神様が喜ばれるようにしたいんです。どうしたらよいか教えてください」。しばらく祈っていると、やっぱり教会学校の方が大切だなんて心から思えました。お友だちにはありがとうの気持ちをしっかり伝えて、断りました。

皆さんは、自分の思いよりも神様の心を大切にでき

るでしょうか。イエス様の祈りを通して学びましょう。

## 苦しみと悲しみの中での祈り

イエス様が十字架にかけられる前の晩、イエス様は弟子たちと最後の大切なお食事と聖餐式をなさいました。そして弟子たちと一緒にいつものようにオリブ山のゲツセマネに行かれました。「誘惑に負けないように、神様に祈りなさい」。そうおっしゃって、イエス様は、石を投げれば届くあたりまで歩いて行きました。

「うぐぐう・・・おお・・・!」苦しみ悶えながら、力を込めて必死にお祈りなさるイエス様。そのお姿は、これまでのイエス様とは別人のよう! やがて、大粒の汗が、まるで血のしずくのように、したたり落ちました。イエス様、なんて苦しそうなんでしょう!

## ありのままの祈り

イエス様の祈りのお言葉が聞こえてきました。

「父よ。許していただけるなら、どうぞこの恐ろしい杯を取り除いてください!」

杯、それは、もう間もなくイエス様が捕えられ、拷問を受け、十字架にはりつけにされ、殺されていく苦しみのことなのです。イエス様はこれから起ころうとする



べてを知っておられました。十字架は、特別に悪いことをした犯罪人を、これ以上苦しめることはできないという方法で処刑するための道具でした。そのあまりの痛さ、恥ずかしさ、苦しきのために、やがては禁止されたほどの死刑なのです。そして何よりも、父なる神様から見捨てられてしまうのです。何の罪もない神のひとり子イエス様が、そんな苦しみの中で殺されるなんて……！それは、私たち一人一人の罪を背負って、身代わりに罰を受けるためでした。そのことをよくわかっておられたイエス様……。でも、目の前に迫った恐ろしい死の苦しみを思い、ありのまま、お心のままを祈られたのです！

### み心が成るように

続いてイエス様が祈られたお言葉、それは、こうでした。「しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」。そうです、イエス様はご存知でした、すべてに優って父なる神様のみ心だけになるべきことを。そして、それこそが、もつとも良い道であることです。ですから、ご自分の思い通りになることを願わず、すべてを父なる神様のお心にお任せになったのです。

皆さんは、神様のみ心こそが、どんな時でも、どんな

場合でも、必ずベスト、一番だってことを知っていますか？ 先の先まで知り尽くしておられる神様は、神様を信じてお任せするすべての人に、ベストをしてくださるのです。イエス様も、十字架にかかれ、死なれましたが、ですからこそ、三日目によみがえられ、救いの道をお開きになったのです。罪に対する、死に対する、完全な勝利を収められたのです！ 十字架の苦しきは、それで終わってしまうものでは決してありませんでした。その先にこそある栄光につながっていたのです！

### まとめ

私たちも、イエス様のように、ありのまま、心のままをお祈りしましょう。何の遠慮もいらないのです。心にある心配や悲しみや不満を、包み隠さず祈ってよいのです。ただ、忘れないでください、続いて「ですが、わたしの思いどおりにではなく、あなたのお心のままになさってください」と祈ることを！ それが、イエス様が命を懸けて示してくださった、神様に喜ばれる本当の祈りなのです。神様のみ心と自分の思いが違っている時、神様のみ心を選び取る、これが祝福の秘訣なのです！

♪祈りつづける♪ (イン69)

# 聖書 ルカ22・31、34、54、59 テーマ キリストのまなざし

## 序論

(金井信生)

イエスがゲツセマネの園で捕らえられて、大祭司の邸宅に連れて行かれた時、ペテロは遠くからついて行きました。しかし、人々にとがめられた時、ペテロは三度、イエスとの関係を否定しました。その時、主は振り向いてペテロを見つめられます。ペテロは主のまなざしに、自分の傲慢さも弱さもすべて見抜かれていたことと、そんな者になお目をとめてくださっているありがたさに、激しく泣くばかりでした。

## 一、愛に満ちたまなざし

イエスはご自身の受けられる苦難について、弟子たちにあらかじめ告げられました。さらにペテロには「あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った」とおっしゃられました。

ペテロは、自分の信仰がなくなるといいう主のお言葉を心外に思い、「わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」と、決意をあらわしま

す。しかし、結果は、イエスの言われたとおりになってしまうしました。

ペテロの人物について、イエスは初めてから見つめてこられました。

最初、兄弟のアンデレによってペテロはイエスのもとに導かれました。その時、「イエスは彼に目をとめて言われた、『あなたはヨハネの子シモンである。あなたをケパ（訳せば、ペテロ）と呼ぶことにする』」（ヨハネ1・42）と。シモン（小石）をペテロ（岩）とする、これからペテロが導かれていく姿を、初めからお示しになりました。

また、イエスが水の上を歩いて近づかれた時、ペテロはイエスに願って自分も水の上を渡らせてくださいと言いました。イエスはこれを許し、水の上を歩きはじめたペテロをじっと見ておられました。そしてペテロが風を見て恐ろしくなり、おぼれかけると、「すぐに手を伸ばし、彼をつかまえて」（マタイ14・31）くださいました。

ペテロが自分で知る以上に、イエスはペテロの言葉や振る舞い、何よりも心を見つめておられました。

## 二、信じぬくまなざし

イエスが告げる「あなたは三度わたしを知らないと言う」という言葉に、ペテロの答えはありませんでした。〈きょう、鶏が鳴くまでに…三度〉と、あまりにも具体的な言葉を受け止めきれなかったのではないのでしょうか。

鶏が鳴いたとき、ペテロは、まさかと思っていたことがその通り起こったことを知りました。イエスから離れることも否定することもあり得ないと自分を信じていたのに、人を恐れて、〈知らない…ちがう…わからない〉と、徹底的にイエスとの関わりを否定してしまいました。

さらに、〈遠くからついていった〉はずなのに、ペテロのこの失態を、〈主は振りむいてペテロを見つめられた〉のです。

もしこの時の主のまなざしに、「やっぱりやってしまったか、やると思った」という思いがこもっていたら、ペテロは立ち直れなかったことでしょう。しかしイエスのまなざしは、〈わたしはあなたの信仰がなくなるらないように、あなたのために祈った〉という、もう一つの言葉を思い出させました。嵐の中で信仰は弱くなるかもしれません。自分では保てなくなるかもしれませんが。

し、そんな私たちを主が信じ、支えてくださっているのです。

## 三、希望に立つまなざし

イエスはペテロに、〈あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい〉と命じておられました。聞いた時には何のことか、ペテロにはわからなかったかもしれませんが。しかし今はわかります。イエスは私たちの失望や絶望さえも越えて、恵みによって再び主の恵みに生きる者となることを望み続けてくださっていました。

信仰者も、大きな試練に対して無力です。失敗することもあります。その時に、弱いんだからしょうがないと傷をなめあうのではなく、主に愛され、信じ支えられてきた経験を分かち合い、主によって結ばれている交わりの中で互いに慰め、励まし合いながら、主に従っていく幸いがあるのです。

## 結論

主は私たちのすべてを知っておられます。主のまなざしの中にいつも自分をおいて、弱さの中にも赦しと回復を与えられる幸いに生きましょう。

## 研究資料

(小平徳行)

ペテロの否認は四福音書すべてに取りあげられているが、ルカだけがイエスのペテロに対するとりなしについて記している。イエスはペテロが否認することだけでなく、その後に、立ち直って、兄弟たちを励ます者としての役割を果たすことを見通しておられた。

## テキスト

31 シモン、シモン 二度名前を呼ぶのは特別の感情の表れである(創世記22・11、使徒9・4、ルカ10・41)。サタンは…願って許された サタンはヘブル語から来ており「敵対者」「訴える者」の意。サタンがもたらすことのできる試練や誘惑は神に許されたものだけである(ヨブ記1〜2章参照)。あなたがた イエスのすべての弟子たちのこと。麦のようにふるいにかける 麦をふるいにかけるのは、もみがらなどをあおぎ除くためである。ここでは、大きな試練によって信仰がなくなるほどに揺さぶられることの比喩。ペテロの否認の背景にサタンの働きがあったことはルカだけが記している。

32 あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った イエスは「試練に遭わ<sup>あ</sup>ないように」とは祈らなかった。試練を通<sup>あ</sup>ることはキリスト者にとって不可欠なことであり、試練の中での信仰、試練を経た信仰こそ精錬された価値ある信仰であると言える(1ペテロ1・7)。あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい これは弱いペテロに対する信頼をこめた愛の励ましであった。

33 主よ、わたしは獄にでも、…一緒に行く覚悟です このペテロの言葉は、勇ましい悲壮感と主への愛にあふれているが、彼はこの時、自分の弱さもサタンの力も認識していなかった。人間的な強さも情熱も、サタンの力の前には無力なものである。

34 きょう、鶏が鳴くまでに、…三度 イエスは人知を越えた知識により、ペテロの否認の回数と時まで予告している。わたしを知らないと言うだろう これは直訳すると「わたしを知っているということを否定するであらう」となり、イエスそのものの否定ではないが、イエスとの関わりを否定していることになる。

54 裁判を夜間に行うことはユダヤの法律に違反するも

のであった。ペテロは遠くからついて行った。ペテロは遠く離れて恐る恐るついて行った。人を恐れた弱気のペテロに、ただちに誘惑が襲った。「人を恐れると、わなに陥る」のである（箴言29・25）。

56〜57 一回目の否認。ある女中 この女中は門番であった（ヨハネ18・16）ので、イエスの弟子たちが神殿に來た時によく見かけていたのであう。見つめて（ギ）アテニゾー）「じつと見つめる」の意で「詳細に調査する」というニュアンスがある。「まじまじと見て」（新改訳）。

58 二回目の否認。ほかの人 ここは男性形が使われている。新改訳では「ほかの男」。マタイでは「ほかの女中」（26・71）、マルコでは「先の女中」（14・69）となっている。ヨハネでは「人々」（18・25）となっていることから、おそらくこれらの人々は一緒にいたのであろう。この男性は先の女中よりも、はつきりとペテロをイエスの仲間の一人と断定した。いや 直訳すると「男よ」。

59〜60 三回目の否認。ほかの者が言い張った ヨハネによれば大祭司の僕でペテロに耳を切り落とされた人の親族であった（18・26）。したがって他の誰よりもペテロ

をしつかりと見ていたので、主張は強かった。この人もガリラヤ人なのだから このことは言葉のなまりから分かった（マタイ26・73）。ガリラヤ地方はユダヤ地方とはアクセントが違った。あなたの言っていることは、わたしにわからない マタイやマルコは、ペテロが激しく誓って、イエスと関係ない者であることを主張したことを記している。

61 主は振りむいてペテロを見つめられた このことはルカだけが記している。大変な状況にあったイエスがあえて振りむいて見つめたところに、ペテロに対するイエスの深い関心、思いやりを見ることができる。このまなざしはペテロに、イエスの予告を思い出させた。知らないと言う（ギ）アパルネオマイ）「否定する」の意。この語は人格的關係を否定、放棄する意味があり、「告白する」、「言い表わす」の反対語として、棄教、背教の教会術語となった（ルカ12・9、Ⅱテモテ2・12）。

62 そして外へ出て、激しく泣いた ここにペテロの後悔と自責の念の深さが表れている。

参考図書 2月14日分と同じ。

## 聖書

ルカ22・31〜34、54〜62

## タイトル

イエス様のまなざし

## 暗唱聖句

主は振りむいてペテロを見つめられた。

ルカ22・61

## 目標

すべてを見抜いた上で、赦しと回復を与える主のまなざしの中で生きる。

## 導入

(飯田勝彦)

「モーセの十戒の9番目は何ですか？」

「嘘<sup>うそ</sup>をついてはならないです。」

真君は、小さい時から毎週教会学校で聖書のお話を聞いています。十戒もすっかりと覚えてちゃんと答えられるほんです。真君はいつも「神様に喜ばれる生活をしたい」と願っています。学校でクラスの友だちが嘘をついたり、悪いことをやったりしていても、「自分は絶対にあんなことをしない」と思っていました。ある時、クラスで一つのゲームが流行りました。「真、あのゲームの新しいソフト持つて？」と友だちから聞かれた時、真君は持つていないとからかわれると思い、思わず「持つてるよ。お父さんが昨日、買ってくれたんだ」と言っ

しまったのです。「絶対に嘘なんかつかない、神様に喜ばれる生活をするんだ」と願っていた真君でしたが、嘘を付いてしまったのです。皆さんは、真君のようなことはありませんか。

## 自分を知らなかったペテロ

今日の聖書のお話には、ペテロさんが登場します。ペテロさんはイエス様の一番弟子であり、弟子たちの中でも兄貴分でした。彼は漁師でしたから、力もあつたでしょう。また、自分がリーダーであることを少し誇りに思っていたと思います。

ある時イエス様はペテロに「シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」と言われたのです。ペテロは「自分こそがイエス様の一番弟子だし、イエス様に今まで従って来た。自分がイエス様を裏切るなんてありえない。それどころか、イエス様を守るのは私だ」と言う思いがあつたのでしょうか。彼は「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、



あなたとご一緒に行く覚悟です」と断言したのです。ペテロの言葉には迫力がありますね。でも、イエス様は「ペテロよ、あなたに言っておく。きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われたのです。この時ペテロは、どう思ったでしょうか。「絶対にそんなことはありえない」とイエス様の言葉を受け入れられなかったでしょう。でもその後、彼はどうなったのでしょうか。

イエス様が捕らえられた木曜日の夜、ペテロはイエス様を追って、大祭司の中庭にいました。すると「ペテロもイエスの仲間だ」と言う者がいました。すると彼は「知らない」と三度答えたのです。その時、鶏が鳴きました。ペテロは、自分の弱さを知らなかったのです。

### すべてを知っておられるイエス様

イエス様は裏切ったペテロを見つめられました。イエス様のまなざしは、どうだったでしょうか。「お前、よくもわたしを裏切ったな」というものだったでしょうか。違います。イエス様は、自分の弱さを知らないペテロをあわれみの思いを持って見つめられたのです。

イエス様のまなざしは、ペテロの心のすべてを見通し

ておられました。イエス様は、自分の弱さを知らないペテロを責めることなく赦ゆるされたのです。でも、それだけではありません。復活された後、ペテロに会い、「わたしに従いなさい」と、彼を神様の働きのために召されたのです。

すべてを見抜かれるイエス様のまなざしは、今、皆さんにも向けられています。人は心を許している人には、正直な自分を見て欲しいと願います。

イエス様は、決してあなたを責め立てる方ではありません。イエス様は、あなたの罪、弱さを赦し、また癒いすために十字架で命を投げ出されたのです。復活のイエス様は、今も、愛とあわれみのまなざしでああなたを見ておられます。

### まとめ

イエス様のまなざしから、逃げる必要はありません。イエス様に心の底まで見て頂いて、もし悔い改めるものがあれば、素直にイエス様に告白しましょう。イエス様はあなたと見詰め合うことを願っておられます。

♪わすれないで♪（ホ73）

# 聖書 ルカ23・13～25 テーマ 身代わりの十字架

## 序論

(金井信生)

ローマ総督ピラトは、裁判の結果として、イエスに何の罪も見いだせないと、祭司長たちと役人たちと民衆に告げました。しかし彼らはこの判決を認めず、死刑囚のバラバを釈放してイエスを十字架につけるよう叫びました。ピラトは叫ぶ声の力に負けて、バラバを釈放し、代わってイエスが十字架につけられることになりました。

## 一、圧倒的な罪の力

バラバについて聖書は、〈都で起った暴動と殺人とのかどで、獄に投ぜられていた者〉と紹介しています。後に、イエスの横で十字架につけられた犯罪人のひとり、「お互は自分のやった事のむくいを受けているのだから、こうなったのは当然だ」(ルカ23・41)と言っています。あるいはバラバの仲間だったのかもしれませんが、バラバも、自分の犯した罪のためにさばきを受け、死刑を受けることを当然と思っていました。

自分の罪を自覚し、定まっている死に対して逃れることができないバラバの姿は、私たちすべての人間の姿です。

聖書に「一度だけ死ぬことと、死んだ後さばきを受けることが、人間に定まっている」(ヘブル9・27)、また「罪の支払う報酬は死である」(ローマ6・23)とあるように、私たちは自分の罪のために神の前にさばかれるなら、死のほかには答えはないものです。罪を犯したくないと思っても、振り返れば罪だらけであり、死にたくないと思っても、逃れようがないほどに、無力な存在です。

## 二、身代わりとなられたイエス

バラバについて新共同訳では、別の写本に基づいて、「バラバ・イエス(アバの子イエス)か、それともメシアといわれるイエスか」(マタイ27・17)とピラトが群衆に尋ねたと訳しています。

つまり、バラバも当時ありふれていた「イエス」という名だったのです。バラバにしてみれば、助かる希望がまったくなかったのに、自分と同じイエスという名の男が突然にあらわれ、自分に代わって死刑になってくれま

した。それも、バラバが自分の罪を償ったわけでもなく、心を入れ替えたことへの報いでもありません。バラバは何も知らず、何もしないでただ赦ゆるされました。この一切は、人が救われるのは、その行いによるのではなく、一方的な神の恵みであることを、極端なほどにあらわしています。

私たちは、自分の罪のために誰か<sup>だれ</sup>が代わって死んでくださった方がいるなど考えられない、つまらない人間ですが、神の恵みが何の報いも求めずに与えられました。イエスの十字架によって、罪が赦されて救われる道が開かれたことを、ただ感謝して受け取るほかはありません。

### 三、バラバはどこに

自分の罪の深さを思い知らされ、その報いの重さに恐れおののくほかないバラバの姿は、私たちの姿と重なります。

そして、イエスの命と引き替えに釈放されたバラバのその後がどうなったのかは、聖書に一切しるされません。むしろ、イエスの十字架が私のための身代わりの死であったと信じるクリスチャン一人一人が、「その後のバ

ラバ」となって、主の恵みに応えて歩んでいくことを求められているように思います。

また、イエスが身代わりとなられた罪人は、バラバだけではありません。祭司長や長老たちのねたみ、また民衆たちの無知、そして総督ピラトが自己保身のために裁きを曲げた罪がありました。いずれも私たちが持つ罪であり、すべてをイエスは反論したり責めたりしないで、負ってくださいました。

私たちの身代わりとなって十字架についてくださったイエスは、私たちの病を担い、痛みを負ってくださいました。逃れられなかった罪の力に縛り付けられ、死に對して無力であった私たちが、主に委ねるときに困難な中でも絶望に終わらずに、平安を得、希望に生きる力が与えられるのです。

### 結論

私たちの負いきれない罪の重荷をキリストは代わって受けて、十字架に死んでくださいました。このキリストを信じて、罪が赦されたことを喜び、どんな悩みもお委ねできることを感謝しましょう。

## 研究資料

(中島啓一)

13 **ピラト** ピラトは紀元26年頃から36年まで、ローマから総督としてユダヤ地方の統治のために派遣されていた。平常はカイザリヤに居住していたが、過越の期間、監視を強めるためにエルサレムに滞在していたようである。**祭司長たちと役人たち** ピラトはヘロデのもとからイエスが戻ってきたときに、ユダヤの有力者たちを再び招集した。民衆「民衆がみな熱心にイエスに耳を傾けていたので、手のくだしようがなかった」(19・48)とあるように、民衆はここまで、ユダヤの指導者たちの敵意からイエスを守る役割を果たしてきたが、ここでその役割にとどまるか、イエスを攻撃する側に移るかの岐路に立たされる。

14 **民衆を惑わすもの** ユダヤの指導者たちはイエスをこのように呼んだが、実際には民衆を惑わしたのは彼らの方であった。すなわち民衆は神の民として、神の遣わされた救い主を受け入れるべきであったのに、指導者たちはそれを妨げ、民衆を邪悪な道へと導いたのである。

15→16 **ヘロデもまたみとめなかった** ヘロデがイエス

を送り返してきたことで、ピラトはイエスの無罪をさらに強く確信した。**この人はなんら死に当るようなことはないのである** 最初は「この人なんの罪もみとめない」(4)であったのに、ここでは「この人はなんら死に当るようなことはしていない」と論調が弱まっている。だから、**彼をむち打ってから、ゆるしてやることにしよう** 本来イエスには、どんな小さな罰に値する罪も、まったくなかったにもかかわらず、釈放するための妥協案とはいえ、イエスに対するむち打ちが提案されている。最後には民衆の声に負けてしまうピラトの弱さを垣間見ることができる。

17 この節は、いくつかの重要な写本で欠けており、原典にはなかった可能性が高い。「―」がついているのはそのためである。しかしその内容は次節以降の理解を助けるものであり、他の福音書の記述とも一致するものである(マタイ27・15ほか参照)。

18→19 **その人を殺せ。バラバをゆるしてくれ** マタイ27・16ではその名を「バラバ・イエス」と記す写本もある(新共同訳はそちらを採用)。後世の写字生が、暴動を起こした犯罪者に救い主と同じ名を、不注意と故意とを

問わず付け足すことは考え難く、バラバの名がイエスであった可能性は高い(当時、イエスはありふれた名であった。コロサイ4・11参照)。その場合、過越の恩赦はバラバとキリストの「二人のイエス」からの二者択一だったことになる。このバラバは、都で起った暴動と殺人とのかどで、獄に投ぜられていた者である。バラバはローマに対して暴動を起こした者であり、ゆえに愛国の士としてユダヤ民族から人気があったのであろう。

20 イエスをゆるしてやりたいと思って プラトはこの場面でイエスをゆるすことについて3回も言及している(16、20、22)。しかし民衆はその都度それを拒み、イエスの処刑を要求した。

21 十字架につけよ、彼を十字架につけよ 民衆はバラバの解放を求めるだけでなく、イエスの死刑、しかも最も恐ろしい十字架刑を要求した(申命記21・23参照)。

22 プラトは三度目に彼らにむかって言った… 3度目の提案は、1度目(14、16)とほぼ同じである。2度目(20)もおそらく同じであろう。

23 彼らは大声をあげて詰め寄り、イエスを十字架につけるように要求した 指導者たちによるイエスについて

の虚説により、民は間違った方向に導かれた。そして、その声が勝った 「毎日あなたがたと一緒に宮にいた時には、わたしに手をかけなかった。だが、今はあなたがたの時、また、やみの支配の時である」(22・53)とあるように、闇の力がはびこる時が訪れたのである。

24、25 プラトはついに彼らの願いどおりすることに決定した プラトは明らかに、イエスが無実であると確信していた。もし彼の優先順位が正義に基づくものであったならば、ローマの権力を有する彼が、ユダヤの指導者層の要求や群衆の圧力に抵抗することに困難を感じることとはなかったであろう。しかし彼の優先順位は实际的であった。任地で暴動が起こることは、地方総督にとつては経歴に傷がつくことであり、避けねばならないことであった。イエスの方は彼らに引き渡して、その意のままにまかせた 公正なさばきをするべき総督が、群衆の要求に屈した点において、彼もまた責任を免れることはできないと言える。

参考図書 注解書 Ellis (NCB), Marshall (NIGTC), Nolland (Word), 榊原康夫(新聖書注解)。その他 The IVP Bible Background Commentary: NT

## 聖書

ルカ23・13～25

## タイトル

身代わりの十字架

## 暗唱聖句

神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。

Ⅱコリント5:21

## 目標

キリストの身代わりの十字架による罪の赦しを受け取る。

## 導入

(飯田勝彦)

皆さんは「冤罪<sup>えんざい</sup>」という言葉聞いたことがありますか？

これは、罪のない人が犯罪者とされることです。この冤罪で、17年もの長い間、刑務所に入っていた人が数年前に出所したことが大きなニュースとなりました。何も罪を犯していないのに、犯罪者とされ不自由な刑務所に数十年も入れられていたら、皆さんはどう思いますか。「すみません。赦<sup>ゆる</sup>してください。」では、すまされない思いでしょう。

イエス様は、十字架刑というとても苦しく重い刑で死なれました。いったい何があったのでしょうか。

## イエス様に、罪は認められない

イエス様は、罪の中に苦しむ多くの人々を救うために来られました。イスラエルの各地を巡り歩き、病人を癒し、罪人をも救いに導き、神様の素晴らしい恵みを伝えておられました。しかし、それを面白くないと思っている人たちがいました。それが、パリサイ人や律法学者たち、またイエス様に反発する人たちでした。彼らは、イエス様が聖書の教えに反することを知らせ、人々を惑わしていると思っていたのです。そのため、イエス様を殺そうと捕らえました。そして、彼らはピラトに裁判をしてもらおうと、イエス様を連れて行きました。しかし、ピラトはイエス様には「何の罪も認められない」ことを告げたのです。これはピラトだけではなく、ヘロデも同じでした。ピラトはイエス様が「死刑にあたるようなこととは何もしていない。だから、むちでこらしめて釈放しよう」と言いました。イエス様には、犯罪者になるような罪は一切、見つけることはできなかったのです。

イエス様は、私たちと同じ人間の姿で来られました。でも、私たちと違う点は、罪のないきよいお方であったということです。



## イエス様を「十字架に付けろ！」との叫び

罪がないなら釈放されて当然です。しかし、祭司長たちや役人と群衆は「その人を殺せ。バラバを赦してくれ」と叫びました。バラバとは、殺人罪で牢屋に入れられていた人です。ピラトは、イエス様を赦してやりたいと思つて、彼らに呼びかけました。しかし、群衆は「十字架につけろ！ 十字架につけろ！」とわめき立てたのです。ピラトは三度目に「この人は、いったい、どんな悪事をしたのか。彼には死にあたる罪は全くみとめられなかった。だから、むち打ってから彼を赦してやることにしよう」と言いました。しかし、彼らはかたくなにイエス様を十字架につけることを願つたのです。それほど、彼らはイエス様を憎んでいました。

## イエス様は罪を赦された

ついに、祭司長たちの声が勝ち、ピラトは彼らの願いどおりすることを決定しました。そして、バラバを釈放し、イエス様を彼らに引き渡して好きなようにさせたのです。

イエス様は、罪を犯したことのなきよい方でしたが、十字架で死刑にされました。それは、神様の計画にあつ

たのです。私たちは皆、神様の宝物であり、愛されている存在です。神様は、大切な私たちが罪の中で苦しんでいることを喜んでおられません。何とか救い出したいと願つておられます。旧約聖書の時代は、罪を赦してもらうために傷のない牛などの動物を殺してささげました。その動物の血が流されることで罪は赦されたのです。でも、動物の血は完全なささげものではありませんでした。私たちの罪が赦されるためには、同じ人間の血が流される必要があります。しかも、何も罪のない血が必要だったのです。何も罪を犯していない人は、イエス様ただおひとりです。

神様は、私たちの罪を赦すために、罪のないイエス様を身代わりにして、十字架にかけられました。

## まとめ

自分の罪を認め、「イエス様の十字架の死は、私の身代わりであつた」と信じるなら、神様はその人の罪を赦してください。そして罪から救ってくださいなのです。イエス様を信じて救われましょう。

♪じゅうじか♪ (ホ62、ふ14)

# 聖書 ルカ23・32～38 テーマ 十字架上での祈り

## 序論

(金井信生)

十字架の上でイエスは七つの言葉を残されました。最初の言葉は、〈父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです〉との祈りです。これは十字架の目的が全人類の罪に対する赦しであることを示しています。

## 一、当事者の祈り

イエスを十字架につけた直接の関係者は、はっきりしています。ねたみのためにイエスを訴えた祭司長と長老たち、正しい裁きよりも自分たちの願いを押し通した民衆、裁判を司り、イエスに罪がないことを認めながらも十字架に引き渡した総督ピラト、そしてイエスを捕らえ、裁判の合間にイエスの頬を打ち、つばをかけ、さらには鞭で打ち、十字架に手足を打ちつけた兵卒たち、すべてイエスの体と心を痛めつけた者たちです。

これら自分を苦しめた者たちのために、イエスは〈彼らをおゆるしてください〉と祈られました。かつて「敵を

愛し、迫害する者のために祈れ」(マタイ5・44)と弟子たちに命じられたことを、自ら実践された祈りです。

第三者としてとりなすのではなく、自分を傷つけた者を赦す祈りをイエスはささげました。そして、敵をも赦し、救うために自らを犠牲とされた証しです。神様が私たちを罪と死から救われるのは、何の根拠もないわけはありません。神の独り子であり罪のないお方が、私たちに代わって死んでくださり、執り成してくださった祈りによるのです。

## 二、罪に縛り付けられている人間

〈何をしているのか、わからずにいる〉のは、イエスの十字架に直接関わった人たちだけではありません。真理を知らずに、自己中心と自己中心がぶつかり合い、悩み苦しみ、互いを責め合っている私たちすべてのことです。

十字架に至る裁判の中で、人の罪の数々が現れてきました。そのすべてを受け止めて、イエスは十字架につき、私たちが本来負うべき罪の責めを代わって負ってくださいました。

人の声に負けたピラトは、水を取って手を洗い、「この

人の血について、わたしには責任がない」(マタイ27:24)と言います。ユダヤ人たちも、神を冒瀆ぼうとくするという宗教的な罪ならば、自分たちで石打ちの刑を執行すべきなのに、ローマの手による十字架刑を求めました。どちらも、自分の手を汚したくない思いから出たものです。

ピラトは、これで皇帝から総督の職務についてとがめられることはないと安心しました。正しいことを正しいとするよりも、自分の立場を守ることを優先したことを当然のように思っています。

祭司長たちと役人たちと民衆は、これで自分たちを批判して人気を集めている者、メシアとして期待外れの者を厄介やっかいばら払いできたと満足していました。本当はねたみや怒りに突き動かされていることをごまかして、あれこれと訴え、自分たちの秩序を保つことだけに精いっぱいです。

彼らは自分の思いが通った、勝ったと思ったことでしょうが、罪に負けているのです。目先の平和や、世のためになることをしたと思っても、神から離れたところでは、自己保身や自己満足にとどまっています。そして神を求めさせず、従わせようとさせない、罪の力にから

みとられていることに気が付かなくなります。ここに登場する人のだれをとつても、「神を求める人はいない」(ローマ3・11) 私たちの姿そのものです。

### 三、すべての人の身代わりとして

イエスは、総督ピラトの判決と、祭司長たちと役人たちと民衆が叫び続ける声を聞き続けられました。もし彼らがこのまま神の前に立つなら、さばかれて滅びに至るしかないことも、また、今彼らに言い逆らつても彼らはますます罪を重ねるばかりであることも、イエスは承知の上で、黙って十字架を負ってくださいました。そして十字架の上で「父よ、彼らをおゆるしく下さい」と祈り、御自分の命をささげてくださいました。

私たちも、自分が罪の力に縛り付けられ、死に対して無力でしかないことを認め、私の身代わりとなつて十字架についてくださったイエスに感謝し、救い主と信じ仰ぐほかはありません。

### 結論

キリストの十字架は罪のある自分のためと知り、「わたしをお赦しください」と信じ祈って、罪の赦しを受けましょう。

## 研究資料

(宮澤清志)

## テキスト

**32 犯罪人** マタイやマルコでは「強盗」と記されている。彼らは習慣的ないわゆる「強盗」の類ではなく、熱心党の者たちであったのではないかという見方もある。それと共に、この犯罪人はユダヤ人であったであろう。39節の言葉よりそのように推測できる。

**33 されこうべ** ヘブル語やアラム語では「ゴルゴダ」と訳されている。マタイ、マルコ、ヨハネは、この「ゴルゴダ」を採用している。一方、ルカは異邦人に向けてこの福音書を書いていることから、アラム語を避けて「されこうべ」と書いたのであろう。「ゴルゴダ」はラテン語では「カルバリ」である。十字架刑場の名がなぜ「されこうべ」と呼ばれていたのか、その理由は諸説あるが定かではない。ただ、この場所がエルサレム城壁の外側にあったということだけは確かである（ヘブル13・12）。**十字架** 具体的に十字架刑がどのように執行されたかについては、マルコ15・14以下を参照。当時の十字架刑はいくつかの方法があった。大別すると、すでに立てられて

いる十字架に、囚人がつるし上げられて固定されるか、それとも横たえられている十字架に釘で打ち付けられ、そしてその十字架が囚人ごとまっすぐに立てられるかである。イエスの場合は、ご自分の十字架をゴルゴダまで運ばされている（26）ので、後者であろう。死刑囚は当然のことながら裸で十字架につけられる。身にまとうものは一切ない。このままの状態で太陽と風にさらされる。しかも、当時の文献では、息絶えるまでには丸一昼夜かかることもしばしばあったようである。

**34 父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです** いわゆる「十字架上の七言」のうちの一番目の言葉。ルカのみが記しているイエスの十字架上の言葉である。百卒長は「ほんとうに、この人は正しい人であった」（23・47）とイエスの十字架を表現したが、このイエスの祈りにその意味を見る。この恐るべき状況の中で、イエスは迫害者のために祈った（6・27、28、11・4参照）。もちろんこの迫害者の中には、イエスを十字架にかけて罵声<sup>ばせい</sup>を浴びせるローマの兵卒（36）や、イエスをあざ笑う民衆（35）がいた。しかしイエスは、これらの人々だけを指して「彼ら」と言っ

たのではない。彼らの背後には人間の罪がある。その人間の罪の神に対するとりなしとして、イエスは十字架にかけられたのである。また「彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」という祈りは、新約聖書、特にルカにおいて一貫して流れている神学である（使徒3・17、13・27）。「彼ら」を責めるのではなく、むしろあわれみと父へのとりなしに満ちた祈りである。なお、この「わからずにいる」（無知）という言葉は、知的に欠陥があるということではなく、罪ある状態をあらわす言葉として用いられている。人々はイエスの着物をくじ引きで分け合った。死刑囚の衣服を分配するという行為は、当時の貧しい時代の慣習の反映であらうと思われるが、同時に詩篇22・18の成就でもあらう。

**35 神のキリスト、選ばれた者** 神によりメシヤとして「選ばれた者」ならば、まず自分自身を救うことができるはずである、という考え方に立つての役人たちのあざけりの言葉。一方で、民衆は立って見ていたとある。この箇所は、他の福音書の並行記事を一緒に読みながら、民衆の思いや他の登場人物の思いを読み取っていただきたい。

**36 酔いぶどう主** 主イエスはこれをお受けにならず、最後まで苦痛を耐え忍びたのである。なぜならイエスは、父なる神の御心に従って、人類のために苦しみの杯を飲む決心をされたからである。

**38 「これはユダヤ人の王」と書いた札** この札は捨て札と呼ばれ、死刑囚が刑場に送られる時、その首にかけられるか、あるいは他の人によって高く掲げられた。そして死刑囚が十字架につけられる時、それも一緒に十字架につけられた。刑が開始されてから通行人が読めるようにと書かれたものである。この札の言葉「これはユダヤ人の王」とは、総督ピラトがユダヤ教当局に対して腹いせに書かせたもので（ヨハネ19・19～22）、ユダヤ人への嘲笑の意味を持っていた。しかしこの場面では、イエス自身に対しての嘲笑の意味も持っている。

**参考図書** A. T. Robertson, Word Pictures in the New Testament Volume II. The Gospel According to Luke (Broadman), 小林和夫「栄光の富Ⅱ」（日本ホーリネス教団出版部）他

## 聖書

ルカ23・32～38

## タイトル

わたしのための十字架

## 暗唱聖句

父よ、彼らをおゆるしください。彼らは

何をしているのか、わからずにいるので

す。ルカ23・34

## 目標

キリストの十字架は、自分のためと知り  
罪の赦しを受け取る。

## 導入

(飯田勝彦)

皆さんの学校では、掃除の時間があるでしょう。

「少しぐらい、手を抜いても大丈夫だろう」と思っ

ていると、ホコリはどんどん溜まってしまいます。そのま

まほっておくと健康にも影響が出てきます。

目に見えるホコリも人に悪影響を与えるとするなら、

目に見えない心のホコリはどうでしょうか。

「心のホコリ?」とは、何だと思いますか? それは、

罪です。罪をそのままにしておくと、どんどん酷くなっ

て行きます。皆さんの心は罪まみれになっていませんか。

ゲームならリセット・ボタンを押せば、最初からや

り直せます。でも、罪は私たちの力では、どうすること

もできないのです。そのままにしておくなら、大変なこ  
とになってしまいます。

## 最後まで傷つけられたイエス様

イエス様は、祭司長たちに引き渡され、十字架にかけ  
られることになりました。十字架刑は当時、重罪人が受  
ける刑で、十字架にかかる者は呪われた者と言われるほ  
ど、苦しく屈辱的な刑だったのです。しかも、二人の犯  
罪人と一緒でした。犯罪人は、自分の犯した罪のために  
その罰を受けることは、当然です。でもイエス様は、何  
か十字架にかけられるような罪を犯したのでしょうか。  
いいえ、イエス様は人生の中で一つも罪を犯したこと  
ない方なのに、十字架にかけられてしまったのです。

十字架にかけられるときには、まるで昆虫の標本のよ  
うに手と足に釘を打ち付けられます。それだけでも、苦  
しいことなのにイエス様は、その十字架にかかっても傷  
つけられたのです。

「他人を救ったのなら、自分を救って見ろ」と議員た  
ちがあざけりました。また、兵士たちは酸いぶどう酒を  
突きつけながら「お前がユダヤ人の王なら、自分を救っ  
てみる」と侮辱したのです。ここに人間の醜さが表され



ています。イエス様は、最後の最後まで傷つけられ、苦しめられました。

### 十字架の上で祈られたイエス様

もし、皆さんがイエス様だったら十字架にかけた人たちに對してどのような言葉をかけるでしょうか。「無罪である者を、こんな目にあわせて、このままじゃすまないからな。今に見てろよ!」と文句をぶつけても不思議はありません。

でも、イエス様はどうだったでしょうか。イエス様は、「父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」と祈られたのです。イエス様は、十字架につけた人たちの赦しを神様に願われました。この祈りからも、イエス様は罪のない方であったことが分かります。もし、ここでイエス様が不平不満や文句をぶつけたらなら、イエス様が聖いお方、罪なきお方とは言えません。

イエス様は最後の最後まで傷つけあざけられたにも関わらず、イエス様から出てきたものは、愛でした。イエス様は、愛なるお方であるからこそ、彼らの赦しを祈られたのです。これは、私たちに對する祈りでもあります。

### 私の罪のために死なれたイエス様

イエス様を十字架につけた人たちと私たちは、同じ罪人です。私たちは罪の中にいるから罪が分かりません。でも、イエス様はそんな愚かな私たちのために十字架で命を投げ出してくださいました。それは、私たちが罪赦され、救われるためです。

イエス様の十字架は、私たちではどうすることもできない心のホコリを取り去ります。

皆さんは、イエス様は自分の罪のために死なれたことを信じますか。イエス様は、あなたの罪のために苦しい十字架に文句も言わずかかってくださいました。そして、罪に對する呪いを全部ひき受けてくださったのです。

### まとめ

「イエス様の十字架は、私の罪のためであった」と信じる人に、神様は罪の赦しと素晴らしい人生を与えてくださいます。

♪ゆるすためです♪（ホ58、イン25）

# 聖書 ルカ23・39〜43 テーマ 十字架による救い

## 序論

(金井信生)

イエス・キリストが十字架につけられた時、左と右に犯罪人も十字架につけられました。その一人にイエスが与えられた約束の言葉は、十字架によってどんな人でも救われることを、はつきりと示しています。

## 一、すでに救<sup>ゆる</sup>されている

十字架の上でイエスは七つの言葉を残されました。最初の言葉は、「父よ、彼らをおゆるしく下さい。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」(ルカ23・34)との祈りです。「何をしているのか、わからずにいる」のは、イエスの十字架に直接関わった人たちだけではありません。真理を知らずに、自分の思うままに、あるいは世に流されるままに、ぶつかって傷つけ合ったり、悩み苦しみ、互いを責め合っている私たちすべてのことです。十字架に至る裁判の中で、誰もイエスに罪を認めることはできませんでした。しかし、イエスは黙って十字架

につき、私たちが本来負うべき罪の責めを代わって負ってくださいました。

神は何の根拠もなく、私たちの罪を赦し、死の力から救ってくださいるものではありません。罪のないお方、私たちを責め裁くことのできるキリストが「父よ、彼らをお赦し下さい」と執<sup>と</sup>り成して祈ってくださいったことによつて、すべての人に罪の赦<sup>ゆる</sup>しが備えられたのです。

## 二、自分の罪を認め、悔い改める

イエスの左右の十字架につけられた犯罪人は二人でしたが、イエスから天国の約束をいただいたのは、一人だけでした。

救われた犯罪人は、まず「神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である」(伝道12・13)と教えられているところに立ち帰りました。そして、その命令を守ってこなかった自分の罪を認め、今苦しめられている刑罰を当然の報いであると認めました。

さらに、イエスが、「御国の権威をもっておいでになる」神の子であり、救い主であると信じました。後は苦しみの中で死を待つばかりであり、自分の力で自分を救うこ

とができないことを認めて、ただ神のあわれみとキリストの恵みにすがったのです。

自分の罪を自覚しても、自分で始末することも償うこともできないのは、この犯罪人だけでなく、私たちも同じです。過去を取り返すこともできませんし、これから正しく生きようと決意しても、実行する力もありません。精一杯まじめに生きても、神の前に本当に赦され、天国に入れていただける確信は生まれません。ただ主イエス・キリストの恵みとあわれみだけが、私たちを救うことができるのです。

### 三、救いの約束

イエスは、〈わたしを思い出してください〉としか願うことのできない犯罪人に、〈あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいる〉と、直ちに答えられました。

「きょう」与えられる救いを、このルカによる福音書は、何度も強調しています。

イエスの生まれた時に、御使は「きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった」（ルカ2・11）と告げました。

またイエスはザアカイに「きょう、救がこの家に来た」（19・9）と宣言されました。

〈パラダイス〉とは、ただ死んでから行くところではありません。だれでもイエスを救い主と信じたその時から、罪が赦された喜びと、主が共にいて支え守ってくださいている平安の中に生きることができなのです。

また、イエスに赦された恵みにこたえて、互いに赦しあっていくなら、私たちのまわりがパラダイス（楽園）に変えられていくのです。

〈わたしと一緒に〉とイエスは言われました。私たちが重荷に耐えきれなくなりそうなとき、悲しみや苦しみに負けそうになる時、イエスと一緒にいて慰めや励ましを与え、パラダイスの平安を満たしてくださいるお方です。

### 結論

イエスの十字架は私たちの救いです。独り子を与えてくださった神様の愛に感謝し、悔い改めと信仰をもって、ご自身を犠牲として献げられた主イエスを、私の救い主と信じ仰いで、主の恵みと祝福にあふれた生涯に導かれましょう。

## 研究資料

(宮澤清志)

この個所は、ルカだけが描いている個所である。ルカによる福音書の中心聖句のひとつは「人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである」(19・10)であろう。すなわち弱い者、数に足りないと考えられている者たちへの福音ということである。ルカは、十字架を語るに当たって再度この事実を語ったかったのである。受難週にあたり、もう一度このルカのメッセージに耳を傾けたい。

## テキスト

39 32〜33節より、イエスの十字架は二人の犯罪人の間に立てられたことが分かる。伝説によれば、本節のイエスをのしる言葉をかけた犯罪人は、その左側にいる犯罪人だったと言われている。「あなたはキリストではないか。それなら、自分を救い、またわれわれも救ってみよ」とののしった言葉から、この男がユダヤ人であって、革新的な熱心党のメンバーであったであろうと推測される。この男のこの言葉を読み解くと、彼は死に際してな

お己の運命に抵抗し、己の犯した罪を他になすりつけ、特に十字架のキリストにその罪を着せようとしているのである。十字架上で死ぬのみで、両脇の犯罪人を救うことをしないのみか、イスラエルのために戦うことをしなかったメシヤは、もはやメシヤではないのである。それゆえ彼は、役人や総督の側に立ってイエスを裁くのである。一方イエスは彼の熱心黨員としての裁きをも背負い、黙って十字架にかかられた(イザヤ53・7)。

40〜41 この部分についてはルカのみが語っている。他の福音書では、「一緒に十字架につけられた者たち」(マルタイ27・44)、「一緒に十字架につけられた強盗ども」(マルコ15・32)となっている。いずれの記述も、この問題をふさわしく扱っているであろう。二人とも、初めはイエスをのしっていたのかも知れない。しかし、十字架上でのイエスの振る舞いを見て、片方の強盗が悔い改めへと至ったのかも知れない。いずれにしても、この強盗は自らをイエスの側に置いた。自分の死を目の前にして、自らが罪人であることと、自らにくだった嚴罰を受け入れたのであろう。

42 御国の権威をもっておいでになる時には この個所

にはいくつかの訳語が見られる。「御国の位にお着きになるとときには」(新改訳)、「御国においてになるとときには」(新共同訳)、「王権をもって来られるときには」(フランシスコ会訳)、「あなたの王国」(岩隈 など。これらの相違は写本(筆者たちが写したテキストを幾度となく書き写したもの)の相違による。ある写本の直訳は「あなたの御国に行くとき」となり、また別の写本では「あなたの御国をもつて行かれる(来られる)とき」となる。新改訳は前者、口語訳は後者の写本を採用する。訳の良さしではなく、各教会で使用している訳に注意を払いつつ、説教者の黙想のヒントとしていただきたい。

**43 きょう** ルカにおいて、この言葉の一つの意味は、もちろん「昨日と明日の間の二十四時間」という意味を持つ(12・28、13・33等)。しかし、ルカにとつてはそれ以上に重要な「きょう」とは、時間の流れの中から抜け出した、特別な意味を持つ。それは、イエスのメシヤ的救いの出来事の起こる日のことである(2・11、4・21、5・26、19・5、9等)。ありふれた「ある日」を「きょう」に変貌<sup>へんまう</sup>させる力は、神の約束の成就にある(ヘブル4・7)。同時にその時間は、「歴史によって期待され準

備されたものを満たしつつやってくる」のであり、ルカからは離れるが、そのことをもつともよく表しているみ言葉は「時は満ちた」(マルコ1・15)の「時」である。さて、このことに関連し、ギリシャ語には「カイロス」と「クロノス」という、2つの時間感覚があると言われる。「クロノス」とは、英語の「クロック」が示すように、時計で測ることのできる時間である。「カイロス」の方は、「永遠の今」という意味合いを持つ言葉であり、イエスがこの強盗に対して語られた「きょう」とは、後者「カイロス」の意味においてである。

**パラダイス** ペルシャ語から来た外来語で、元来は「囲い」を意味し、果樹その他を植え込んだ「園」を意味した。七十人訳聖書(ギリシャ語訳旧約聖書)では、特に「神の園」をさす言葉として用いられており(創世記2・8以下、13・10、エゼキエル31・8)、そこから派生して、元来の、しかし今は隠されており、未来に再び啓示される楽園、すなわち終末の時代に回復されるエデンの園を意味する名称となった。

**参考図書** 3月13日分と同じ。

## 聖書

ルカ23・39〜43

タイトル  
暗唱聖句

十字架の救いを受け取ろう

あなたはきょう、わたしと一緒にパラダ

イスにいるであらう。ルカ23・43

## 目 標

悔い改めと信仰を持って、十字架による救いを受け取る。

## 導入

(飯田勝彦)

五年生の博君は、勉強もできるし、スポーツも万能でした。でも、クラスのみんなは博君となかなか仲良くできませんでした。博君はいつも、体育の授業になると自分の出番だと熱くなります。百メートル走など一人でやる種目の時は良いですが、バレーボールなどのチームの種目になると、博君の欠点が出てしまうのです。博君は、自分が一生懸命になればなるほど、人の失敗が許されなかったのです。チームメートが失敗すると「何やってんだよ。」とすぐ文句がでます。でも、いざ自分が失敗すると「ごめんね」の一言もないのです。博君は、自分の失敗を素直に認めることができませんでした。

皆さんも自分の失敗を認めれば、仲良くできるのにそ

れを逃してしまつて、気まづくなつたことありませんか。

## イエス様に悪口を言う犯罪人

皆さんは、今までの生活で苦しかったことや、悲しかったことがあつたでしょう。その原因をずっと突き詰めていくと、幸せを妨げる罪に行き着きます。

その罪が解決されないと、幸せに生きることとは出来ません。罪は、私たちの身体の外にあるのではなく、内にあります。イエス様は私たちをその罪から解放するため、手足を釘で打たれ、十字架にかかられました。

十字架にかかられたイエス様の横には、右と左に犯罪人が一緒につけられたのです。罪を犯したこともないイエス様でしたが、犯罪人と同じ扱いを受けられました。しかも、犯罪人の一人が「お前はキリストだろ。だつたら自分を救い、俺たちも救つてみる」とイエス様に悪口を言つたのです。イエス様は、どんなに悲しかったでしょうか。

イエス様に悪口を言つた犯罪人は、人のことをとやかく言う資格があるでしょうか。ありません。なぜなら、彼自身は十字架にかからなければならぬほどの罪を犯



しているからです。彼の言葉には、罪を反省しているような様子はありません。自分の罪を認めずに、人を責めるのは悲しいことです。

### イエス様によって救われた犯罪人

イエス様の隣にいたもう一人の犯罪人は、悪口を言った者に対して「お前は同じ刑を受けながら、神を恐れないのか。お互いは自分のやった事の報いを受けているのだから、こうなったのは当然だ。しかし、このかたは何も悪いことをしたのではない」と言いました。彼は、自分の罪の重さを認めていました。自分の罪を素直に認めない人は、いつも他の人を責めることが多いのです。

皆さんは、どうですか。自分の罪を認める人は、イエス様の救いを心から求めることができます。

この犯罪人は、自分の罪を認め「イエスよ、あなたが御国の権威をもっておいでになる時には、わたしを思い出してください」と言いました。彼は、イエス様こそ自分を救ってくださいる方だと信じました。そして、罪から救って欲しいと真剣に願ったのです。これは、彼が死ぬ前の人生最後の願いでした。

イエス様は、信仰をもって救いを求める彼に「よく言うておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」と言われました。

この犯罪人は、イエス様から「お前は、救われた。大丈夫だよ」と言われたのです。彼は、どれほど嬉しかったでしょうか。

自分の罪の報いとしてただ死を待っていた彼が、罪赦され、しかもパラダイスへの希望を持って死を迎えることが出来たのです。彼にとって死は絶望ではなく、パラダイスへの通過点となったのです。

### まとめ

私たち誰にも罪があります。その罪を認めて救い主イエス様を信じるなら、誰でも救われます。

イエス様は、あなたに希望に満ちた人生を与えてくださいます。私たちの罪のために十字架で命を投げ出してください。私たちがイエス様を信じて歩み始めましょう。

♪じゅうじか わが力♪ (ホ115)

# 聖書 ルカ24・1～12 テーマ よみがえられたキリスト

序論

(小泉 創)

イエスに従ってきた女性たちは、愛するイエスの死をなすすべもなく見守るしかありませんでした。彼女たちは、どれほどの悲しみ、痛みをあげたことでしょう。せめてそのときにできなかった十分な葬りをさせていただこうと、三日後、女性たちはまだ夜も明けないうちに墓へと向かいました。しかしそこでは、思いもかけない出来事が待っていました。

## 一、途方に暮れる

墓についた女性たちを待っていたのは、主イエスの墓をふさいでいた石が転がされ、墓の中に葬られたからだが見当たらないという状況でした。さらに悲しみが上乘せされる事態の前に、彼女たちは途方に暮れるしかありませんでした。せめてものの愛のわざと思って準備してきたことでさえ、役に立たないのです。

度重なる現実打ちのめされ、途方に暮れるのは、私

たちも一緒です。それまでの経験も準備も何にもならないときがあります。

女性たちが空の墓の意味していたことを想像しえなかったことは、無理もないことでした。死は断絶です。生きている者と死んだ者との間には深い淵があります。誰が死の淵を乗り越えることができるでしょうか。

しかし、神にはできないことはありません。絶望の中にこそ始められる神のわざがあります。私たちが今、目の前にみている空の墓のような現実にも、神は力をあらわすことができると信じますか。

## 二、驚き恐れる

突然、輝いた衣を着たふたりの者が、女性たちの目の前にあらわれました。常識を超えた何かが起きていることは明らかでした。女性たちは驚き恐れ、地に伏せる以外にありませんでした。

〈なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ〉。十字架で死なれた主イエスのことを、このふたりの者は生きた方と呼びました。そして、よみがえられたのだ、

と宣言しました。

死は終わりではないということです。主イエスは生と死の深い淵を乗り越えて帰ってこられたのです。誰も死に打ち勝つことはできなかったのに、勝利なさったお方がおられるのです。死の中に閉じ込められていた人に解放を告げる宣言です。

クリスマスに神の子が人として来られたことも驚きです。しかしイースターに、十字架で死なれ、墓に葬られた方がよみがえられたということは、さらに勝る驚きです。このことを事実と認めたとき、この世界はまるで違う光景に様変わりします。

### 三、証人となる

さらにふたりの者が言ったことは、イエスの語っていた言葉を思い出しなさいということでした。そのことを聞くまで、女性たちもイエスが約束しておられたことを忘れていました。

「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い

起させるであらう」(ヨハネ14・26)。

私たちを本当に力づけることは、不思議な出来事ではありません。聖書の中に記されている神のみ言葉です。そのみ言葉に聖霊が働かれたときに私たちは変わることはない神の声を聞き、生きておられる神にふれていただけるのです。

女性たちはイエスがよみがえりを約束しておられたことを思い出し、信じました。だから、急いで弟子たちのところに帰り、自分たちが知ったことを伝えたのです。

そこではすぐに理解してもらえただでしょうか。いいえ、やはり使徒たちにも、愚かにしか聞こえませんでした。しかし彼らもすぐに信じる時が用意されているのです。だから、証人とされた者は、あかしを続けられよいのです。

### 結論

イエスはよみがえられた。それは女性たちが今まで見聞きしてきたどのような奇跡よりも、驚くべきことでした。よみがえりの命は、悲しみ、途方に暮れ、恐れている者たちを喜び、希望にあふれさせます。どこまでもこの素晴らしい主に従い、あかしをしていきましょう。

## 研究資料

(金井由嗣)

## 文脈

ルカによる福音書には、主の十字架と復活について繰り返し教えられながらその本質を理解できない弟子たちの姿が描かれてきた。復活の日の記事においてもそれは変わらない。聖霊によって新しく生まれなければ十字架と復活の奥義は理解できないからである。しかし主イエスは「愚かでこころのにぶい」(25)弟子たちを見捨てず、繰り返し彼らに御自身を現し、旧約聖書からメシヤの苦難と復活について教えられた。ペンテコステの日に聖霊が降ることによって弟子たちは主の教えを真に理解し、確信を持つて福音を宣べ伝え始めたのである。

## テキスト

**1 週の初めの日、夜明け前に** 主イエスが十字架で息を引き取った金曜日の日没から土曜日の日没までは安息日であったため死体に触れることはできなかった。安息日が終わった土曜日の日没後に女性が外を出歩くことは危険だった。それゆえ、彼女たちは可能な限り早く主の墓に向かったのである。**用意しておいた香料** 時間の制

約で略式の埋葬しかできなかったため、改めて正式な葬りを行おうとしたのである。

**2 石が墓からころがしてあるので** マタイの並行箇所には御使が石を動かして地震が起こったとの記述があるが、マルコとルカは石が動いていた事実のみを記している。女性たち自身の目撃証言であらう。

**3 主イエスのからだが見当らなかった** 女性たちは主イエスの遺体が当然墓の中にあるものと思っていた。主を心から愛していた彼女たちにとっても復活は思いもよらない出来事だったことがわかる。

**4 途方にくれていると** 前置詞[ギ]エンと不定法が用いられ、事柄の同時性が示されている。「途方に暮れていたまさにその時に」とでも訳せばよい。**輝いた衣を着たふたりの者** マタイでは「主の使い」、マルコでは「若者」で共に単数形。ルカは主イエスの昇天の記事(使徒1・10)でも現れた御使が「ふたり」であったことを記している。明らかにルカは重要な出来事の証人として「二人」が現れたことを重視している。ヨハネ20・12にも「ふたりの御使」が登場することから、この時の御使が二人いた事には強固な伝承があったとみなしてよい(マーシヤ

ル)。現れた〔ギ〕エフィステミ、直訳は「すぐそばに立っていた」。それまでいなかったものが突然そばに立っていることで、超自然的な出現が示されている。使徒12・7も同様。

5 驚き恐れて、顔を地に伏せ この記述からも御使の出現が超自然的な出来事であったことがわかる。なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか この問いかけは他の福音書には見られないが、ルカの文脈には適合している。熱心に主に従いながら、復活を理解できず見当違いのところを探している弟子たちの姿が示されている。

6 そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ マタイとマルコにも共通する復活の宣言である。知的理解によって復活を受け入れることはできない。神の宣言（み言葉）をそのまま受け取る信仰が求められている。まだガリラヤにおられたとき…思い出しなさい十字架と復活の予告は、主イエスによって度々語られていた。弟子たちに必要なのはそのみ言葉を思い出し、信じることだった。「ガリラヤ」はマタイとマルコでは復活の主と出会うために帰っていくべき場所だが、ルカではそこで語られたみ言葉に帰るべきことが強調されている。

8-9 女たちはその言葉を思い出し、墓から帰って…報告した 語られたみ言葉に立って復活を最初に信じたのは、この女性たちだった。

10 この女たち 福音書によって多少の異同はあるが、マグダラのマリヤについては全て一致している。女性たちの復活証言においては彼女が中心的役割を担っていた。「ヤコブの母マリヤ」は主イエスの母であろう。

11 使徒たちには、それが愚かな話のように 女性たちの証言にもかかわらず、復活を信じようとしない男性の弟子たちの姿が描かれる。ルカが繰り返し記録する「愚かで心のにぶい」弟子たちの姿である。

12 この節は本文の取り扱いに注意を要する。一部の古代写本や教父の引用にはこの節を欠いたテキストが存在するため、ヨハネ福音書の記事に由来する後日の挿入とみなす学者もいる。しかしこの記事はヨハネよりも古い伝承に由来することと24節との整合性から、ルカ本来の記事であったとみなしてよい（マーシャル）。

参考図書 ボウカム『イエス入門』、クラドック（現代聖書注解）、モリス（ティンデル）、Green (NICNT)、Marshall (NIGTC)。

## 聖書

ルカ24・1〜12

## タイトル

イエス様はどこに？

あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。

ルカ24・5

## 目標

よみがえられたイエス様とともにおられることを喜ぶ

## 導入

(後藤 真)

みなさんは、お墓に行ったことがありますか？ 教会のお墓（納骨堂など、教会の墓地に合わせて適当に言い換えてください）に行ったことがあるかもしれません。お墓には死んだ人の骨が入れています。お墓に行くとその人のことをなつかしく思い出します。

ところが聖書には空っぽのお墓が出てきます。それはイエス様のお墓なのです！

## 日曜日の朝早く

イエス様が十字架にかかって死んだのは金曜日でした。土曜日は安息日で、何のしごともできない日でした。それでイエス様の体は金曜日のうちに急いで十字架からおろされ、岩を掘って作ったお墓に入られました。そ

こには何人もの力持ちがいないと動かせないほどの、大きな石でふたがしてありました。

マグダラのマリヤと何人かの女の人たちは、イエス様のからだを、もつとていねいに、きれいにしてお墓に入りたいと思い、日曜日の朝早く、香料や香油をもってお墓に急ぎました。ところがなんと、あの大きな石が転がしてあって、お墓の入り口が開いていたのです。恐る恐るの中に入ってみると、イエス様のからだはありませんでした。なんとということでしょう！

## ここにはおられない

するとそこに、輝く服を着た二人の人が現れました。マリヤたちはびくくりして顔を上げることもできませんでした。この二人の人は御使い（参考マタイ28・1〜5）でした。そしてこう言いました。

「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを思い出さない。すなわち、人の子は必ず罪人らの手に渡され、十字架につけられ、そして三日目によみがえる、と仰せられたではないか」。



3月

## 27日 礼拝メッセージ例

イエス様は、お墓にはいません。よみがえられたのです。十字架にかけられる前にお話しされていたとおり、金曜日・土曜日・日曜日で、びつたり三日目によみがえられたのです。御使いたちはそのことをマリヤたちに伝えたのでした。

マリヤたちはこのことを思い出して、お墓で見たことを弟子たちや、まわりの人たちに伝えました。でも、弟子たちは「そんなばかな」「イエス様は十字架で死んだじゃないか。死んだ人間がよみがえるわけないよ」と信じませんでした。

信じない弟子たちを「信仰がないなあ」なんて、責めることはできません。信じられなくて当たり前です。死んだ人がよみがえるなんて、ぜったいにないことだからです。弟子たちにも信じられないようなことが起こったのです。イエス様がよみがえったのは、人間の力ではなくて、神様の力でした。

### ともにおられるイエス様

今でもイエスエルに行くと、イエス様のお墓だったと言われている場所があります。そこには「ここにはおられない。よみがえられたのだ。」と書かれています。イ

スラエルに旅行して、イエス様のお墓を訪ねても、イエス様を懐かしく思い出すことはありません。なぜなら、イエス様は今も生きているからです。

では、イエス様は、今はどこにいるのでしょうか。天国でゆっくり休んでいるのでしょうか。そうではありません。イエス様は、今もわたしたちの心の中にいっしょにいて下さいます。

イエス様がよみがえられたことを信じなかった弟子たちは、十字架でイエス様が死んで、がっかりし、落ち込んでいました。でも、よみがえられたイエス様に出会ったとき、喜びでいっぱいになりました。そしてイエス様からイエス様を伝える仕事を任せられます。

わたしたちも、イエス様を「昔の偉い人」として信じるだけでは力が出ません。でも、イエス様は今もお祈りを聞いて下さいます。助けて下さいます。聖書のことばを通して導いて下さいます。生きて働いて下さるのです。このよみがえられたイエス様を信じ、心の真ん中にお迎えして、喜びいっぱいの毎日を送りましょう。

♪主は今生きておられる♪(PW49)

# 牧羊ひろば



## 鹿児島めぐみ教会 教会学校

### ●継続は力! —これまでの歩み—

主の聖名を賛美致します。

教団の二十一世紀宣教プロジェクトの中で、一九九七年4月から、鹿児島での開拓が始められ、今年で18年が経ちました。開拓当初から、何とか教会学校を開きたいとの祈りの中、その年の9月に一〇〇〇枚の教会学校案内を作り、小学校前で配り始めました。配布した次の日曜日、「神様、子どもたちを送って下さい」と祈り待っていた時、教会のビルの階段を駆け上がってくる足音が聞こえました。見ると、教会案内を手にした一人の男の子でした。「J君」。彼は小学校3年生で、教会のすぐ近くに住んでいました。とても明るくおしゃべり上手な男の子でした(神様感謝いたします!)。その日、たった一人ですが、大切な一人との、初めての教会学校が行われました。お母さんにもご挨拶をしたいと思います、J君を

送っていく途中、「先生、ばく危機なんだ」と話しかけてきたのです。「え、何の危機?」「お父さんとお母さん、もうすぐ離婚するんだ」…。私は一瞬、何と声を掛けていいか分かりませんでしたが、神様が良い答えを導いて下さいました。「私もお父さんがいなかったんだ!」。私の言葉を聞くとJ君は「えー!」という顔で私を見上げました。その顔は、「この大人は僕の気持ち分かってくれそう」と安心したような顔でした(私自身、父が家を出ていくという、試練の中を通らされたことが、離婚家庭や様々な家庭環境の子どもたちの心に寄り添えるため



8月生まれお誕生日会

だったのかもしれないと、J君との出会いを通して気づかされました。

前置きが長くなりましたが、このJ君が、この日から雨の日も灰の日も、毎週教会学校に来てくれるようになり、友人や、お母さんも教会に誘ってくれるようになりました。当時、土曜日に公園伝道をしていましたが、それにも必ず来てくれました。

J君にどれほど励まされていたことでしょうか。しかしその後、J君のご両親は離婚され、彼が6年生になった二〇〇〇年に、お母さんの故郷、沖縄に引越していききました。一人の男の子



2004年教会学校クリスマス

から始まった教会学校は主の恵みの中、少しずつ人数も増えていきました。

二〇〇五年の平均出席は、小学科9人、中学生科5人になっています。クリスチャンホームはまだなかった中で、みんな未信者の家庭から送られてきた子どもたちでした。教会学校プログラムは、9時～9時25分：礼拝、9時30分～9時40分：分級（子どもたちと会話し祈る時間）、9時45分～10時：ゲーム、10時～10時15分：おやつタイムでした。その他毎月1回スペシャルサンデーとしてお誕生日会やホットケーキ作り、お好み焼き、たこ焼き、朝食会（朝食べてこない子どもたちのため、ご飯・お味噌汁・卵焼き・ウィンナー等準備）をしていました（現在もプログラム・スペシャルサンデーはほぼ同じです）。一時期はクリスマス劇が出来る子どもたちが来ていましたが、二〇〇八年頃から少しずつ人数が減ってきました。小学生の子どもたちが中学生になり、部活などで来なくなりしました。二〇〇九年の小学科平均人数は1人、中学生科2人となっています。この頃、「今朝は誰かきてくれるのかな」と教師たち4人は、祈りながら子どもたちを待つことになりました。誰も来ない教会学校で

したが、「いつ子どもが来ても良いように、準備しておこうね。誰も来ない日は、この時を祈りの時間にしようね」と会話していたことを思い出します。私自身も朝早く準備して来られる教会学校教師の皆さんの事を気遣いながらも、CSの働きを絶対にやめてはいけないことだけ、何度も自分に言い聞かせました。神学校時代、教えに来て下さっていたある先生がいつも「継続は力です」と語っておられたのを思い出していました。続けることに意味があるとその大切なメッセージを心に留め今日まで来ています。



1年生

●クリスマスチャンホームの子どもたち  
二〇〇六年、ビルの2階の教会で結婚式が挙げられました。CS教師だった兄弟と熊本からお嫁に来て下さった姉妹♥(彼女もCS教師でした)、クリスマスチャンホームの誕生でした。2人に子どもが与えられ、最近の教会学校はクリスマスチャン家庭の子どもたちが5名と未信者の家庭から送られてくる小学生、中学生が数名います。時が経ち、主の恵みの中、クリスマスチャンホームの子どもたちが教会学校に出席し、成長していく姿を見られるのは本当に嬉しいことです。



教会学校キャンプ

## ●最近の取り組み

二〇一五年に新しい会堂に引越しました。大きい通りからも十字架がよく見え、公園も近くで、緑もあり、小さなお庭もあります。この場所を拠点に、広く子どもたちを誘っていきます。今年度から、CSのメッ

セージについて新しい試みを始めています。聖書の話しを、自分と無関係な話としてではなく、どうしたら子どもにとって身近な話に出来るのか、また深く理解できるのかとの願いからです。毎週違うメッセージをすることをやめて一か月、一つのお話を4週（5週）することになりました。1週目は聖書紙芝居をそのまま、伝えたい



主が与えて下さった会堂

メッセージも加えて読む。2週目、3週目は同じ内容の紙芝居を見ながら、子どもたちいろいろな質問をして、一緒に考える時を持ちます（例えば「放蕩息子」なら、「お父さんからお金をもらった弟息子が遠い外国に行った時、お父さんはどんな気持ちだったかな?」「お金が無くなって、お腹もすいて、弟息子はどうしようと思ったかな?」などです）。3週目に、紙芝居の絵の5コマ位を縮小コピーして、子どもたちに渡します（子どもは自宅で、自分で練習します）。第4週目、最後の週は、子どもたちが紙芝居を見ながらお話しをします。小1が2人、5歳、3歳の子どもは時には手伝いをもらいながら、一人で話せます。4月から6つのお話しをしてきましたが、回を重ねる毎に、上手になっています。子どもたち一人一人の心に深く、聖書の話し、キリストの心が残っていくことを願い、しばらくこの形で教会学校をしていきたいと思っています。

もう一つの取り組みは、牧師が以前学んでいたモンテッソーリ教育を用い、火曜日の午前中に子育て親子クラブのような集会（グレイススクール）を持ちたいと思っています。その準備も兼ねて、一般の礼拝中の保育時間



に子どもたちも教具を使ったり、工作をしたり、楽しく過ごしています。地域の子どもたちもたくさん教会にきてくれることを祈りながら、教会学校の働きについて、模索し、諦めることなく、格闘していきたいと思っています。

最後に、これまでの教会学校の働きの中で、未信者の家庭の子どもさんが2人受洗しています（今は青年になり、教会を手伝ってくれています）。最初に教会に来たJ君は27歳になり、この秋結婚する予定で、司式を頼まれました。小さかった子どもたちが、神様の愛の中大きく成長していることは本当に嬉しいです。報われること



お話しをするA君

の少ない働きですが、継続していきたいと思っています。

（白尾真理子）



新会堂初めての礼拝後みんなです！



## 『牧羊者』のご購読・ご利用について

\* 分級用に、ワークA(幼稚園向け)、B(主に小学生1~3年生向け)、C(主に小学生4~6年生向け)を用意しています。また、付録として「子ども聖書日課」、「フラッシュカード」、「み言葉カード」、「中高科へのヒント」があります。いずれも、下記ホームページから無料でダウンロードできます。送付ご希望の方には、ワークは各600円+税でお送りします。  
信徒局 教会教育室 ホームページ  
<http://cs.jccj.info/>

\* ご注文は、日本イエス・キリスト教団(事務局)まで。申込み、部数変更等のための用紙も、上記ホームページからダウンロードできます。  
神戸市兵庫区塚本通3-3-19  
電話 (078) 575-5511  
FAX (078) 575-6611

## おわりに

『牧羊者』二〇一五年度第IV巻をお届けできますことを感謝します。また、執筆者のご労苦に感謝いたします。教師養成講座は、森沢尚生師に、「聖書の教える人格教育 第一回 聖書の教える教育とは？」を執筆していただきました。「牧羊ひろば」は鹿児島めぐみ教会のCSを紹介していただきました。  
今号の執筆者、奉仕者を紹介いたします。

### 聖書講解 研究資料

### メッセージ例

### ワーク(A)(B)(C)

### 中高科へのヒント (C) 子ども聖書日課 フラッシュカード

### み言葉カード ・イラスト ワープロ打ち込み

### 校正

石田高保師 小泉創師 福井文彦師  
金井信生師 高橋頼男師 加藤郁生師  
宮澤清志師 小平徳行師 金井由嗣師  
辻林和己師 中島啓一師 井上義実師

木村勝志師 松浦みち子師 和田治師 飯田勝彦師

水野晶子師 土屋開夫師 後藤真師

鎌野幸師 吉田美穂師 佐川直実師

勝田幸恵師 山下大喜師 野勢かほる師

竹崎光則師 田中裕明師 小野淳子師

上森恭子師 後藤健一師 山下愛師

石田高保師 金田ゆり師 山下愛師

田中愛子師 松浦あん師 山下愛師

丹羽遥姉 佐藤由香姉 山下愛師

丹羽遥姉 佐藤由香姉 山下愛師

多田豊子師 長田栄一師 加藤清師 山田和幸師

中島啓一師 長田栄一師 加藤清師 山田和幸師

また、事務作業・発送の教団事務所の兄姉、印刷の松木共栄印刷、菱三印刷に心から感謝いたします。(中島啓一)

### 聖書教育教案誌 牧羊者

#### 二〇一五年度 IV巻

二〇一六年一月一日発行

発行所 日本イエス・キリスト教団  
企画監修 日本イエス・キリスト教団・信徒局 教会教育室

神戸市兵庫区塚本通三二一一九  
電話 (078) 575-5511  
FAX (078) 575-5511  
菱三印刷株式会社  
印刷所 電話 (078) 576-1396

\* 日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み